

2023(令和5)年度

事業報告書

一般社団法人アート・インクルージョン



目 次

1. 2023（令和5）年度事業成果と総括	3
2. アートによる自己表現＝創造事業	
「つくる事業」（就労継続支援B型事業所の運営）	4
3. アートによる交流・協働事業	
「つなげる事業」（アートプロジェクト事業）	22
(1)Aiを拠点としたアート・プロジェクト	
(2)地域と協働したアート・プロジェクト	
(3)他団体や障害をもつ人の家族との交流・協働事業	
4. アートによる仕事づくり事業「仕事にする」事業	45
(1) グッズ・コンテンツ開発および販路の開拓	
(2) アートを仕事にするネットワーク環境形成事業	
(3)うめえな～お花見マルシェ	
(4)その他ソフトコンテンツ事業	
5.パブリシティとファンドレイジング事業	
「つたえる事業」	50
6. 2023 年度決算	52

1. 2023（令和5）年度事業成果と総括

コロナ中にまいた種がさまざまに芽を出した1年

代表理事 門脇篤

2023年度は、いつ終わるとも知れず長くつづいたコロナが収束し、やっと普段の活動ができる日々が訪れました。これにより、これまでひかえてきた外へ向かっての活動を取り戻し、コロナの間に試行錯誤し、培ったあれこれも取り入れながら、さらに発展させてきた1年でした。しばらく途絶えていた新規スタッフの受け入れも始まり、本年度は支援学校から1名が、2024年度は2名が、新たに利用契約、アーティスト契約を結んでそれぞれの表現や生き方を模索しています。

新たに始まった仙台市内の福祉サービス事業所、文化センターと互いの事業所に滞在する「交換留学」は、これまで連携してきた団体間の交流を促進するとともに、改めて自分たちの取り組みを見直す機会となりました。また、バスを借りて化女沼へ日本でも稀有となった渡り鳥を見に行くなど、外へ向かっての活動は新たな展開を見せています。

事業としても、特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAINとの連携事業が本格化し、特にこども支援分野で大きな進展が見られました。文化芸術活動にとって、「なんじゃこれは！」「すごい！」「そんなのあり？！」と、見たことのないもの、知らなかったものと、偏見のない感動をもって出会う経験は重要なものであり、その人の世界を広げ、この世界を広げていく原動力です。そのためには、「社会化」される以前のこどもやその家族が広い意味での文化芸術にふれる機会を提供し、そこにいあわせることは本団体のミッションを達成していくためにも非常に重要なものです。ふうどばんく東北AGAINとの新たな連携事業はそうしたものを埋める事業となっていくでしょう。

そうした意味で、本年度はコロナ中にまいた種がさまざまに芽を出し、コロナ後へと飛躍していくための1年となりました。この動きや気持ちを次年度へとつなげていきたいと思います。

2. アートによる自己表現＝創造事業「つくる事業」（就労継続支援B型事業所の運営）

(1) 総括

2023年度末のアート・インクルージョン・ファクトリー(以下、Ai)の利用者数は32名。新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染症予防として、昨年度に引き続き通所時の検温や体調の確認、手指の消毒を継続。新型コロナが5月8日に5類感染症へと移行したことを受け、事業所内でのマスク利用については着用を推奨するが、会話をせずに活動をする場合は着用の有無を個人の自由とした。また、新型コロナの感染拡大に伴い利用が広がった在宅サービスについては、5類感染症への移行後、仙台市障害企画課社会参加係より新型コロナを理由とする在宅利用廃止の通知があり、その利用期限は各スタッフの障害福祉サービス受給者証の期限(誕生月)までとなった。5類感染症へと移行したものの、宮城県内での感染の波は収まらず、スタッフからの不安の声は少なくなかった。制度廃止後間もなく受給者証の更新時期となったスタッフの中には、公共交通機関の利用や人混みでの新型コロナ感染に不安を感じるスタッフもあり、通所することを避け、休むことを選択する場合もあった。長らく続いた生活様式の大きな変化や感染への不安などにより、強迫症状の強まりを感じるスタッフや、新型コロナに対応した生活リズムによりやく慣れた中、新型コロナ以前の生活リズムへと戻していくということは、スタッフにとっても大きなストレスとなり、戸惑う声は少なくなかった。新型コロナ感染症が理由とはならないが、それに伴う強迫症状の増加やその他の理由によって在宅サービス利用の新たな申請を希望するスタッフについては、パートナーがスタッフ本人やご家族に十分に聴き取りをし、在宅利用に係る届出書を作成し、スタッフの居住地を管轄する区役所、支所に申請書を提出した。申請時には本人、ご家族と共にパートナーが同行し、窓口にて申請内容を説明した。利用許可が下りたスタッフについては障害福祉サービス受給者証に在宅利用の記載がなされた。在宅サービス利用者との連絡には、電話やLINE、zoomを用いてコミュニケーションを図り、本人の希望や体調を細かく把握し、ご家族との情報共有や連携を取りながら支援につとめた。

4月には新型コロナにより実施を見送っていたウェルカムパーティを仙台市市民活動サポートセンターにて4年ぶりに開催することができた。当日はスタッフ・パートナー他、ご家族、講師、相談支援専門員やAiに関わる方々約80名が集い交流した。2019年の5月以降に利用を開始したスタッフ2名と2023年4月から利用を開始したスタッフ1名の、合わせて3名のスタ

ップを関係者へと紹介することができた。また、同じく開催を見送っていた家族会を開催することができ、ご家族のもつ不安や疑問などを共有し交流する機会へと繋がった。



ウェルカムパーティの様子

コロナ禍でAiギャラリーでの展覧会開催やステージ出演の機会が失われたことによって生まれたオンラインでの展覧会、トーク・ライブ企画は引き続き月1回のペースで開催した。この他、スタッフが提案・企画し、主体となって参加する活動の機会を重視し、駄菓子を販売する「たかびい商店」「むかし遊びコーナー」「スイーツアートワークショップ」「似顔絵」「粘土作品実演販売」などの企画が数多く実施された。スタッフそれぞれの持ち味や強みを発揮する場のひろがりとともに、地域の方々との交流の機会へと繋がった。また、毎月発行のAiニュースペーパーの原稿制作や取材、写真撮影、オンライン企画の配信作業(PAやオペレーター)、MCなどにもスタッフが積極的に関わることにより、技術の更なる向上にも繋がった。

地域交流事業として、2021年度から実施しているAiファクトリー@一番町を全3回実施した。ぶらんど〜む一番町アーケード内に、事業所内で使っている机や画材、作品を設置し、スタ

ップによる公開制作を行いA i の日常を再現した。また、3名のアーティストによる展示企画を同時に実施し、作品を通して地域の人々との交流へと繋がった。



Aiファクトリー@一番町の様子



ペットフェスでの粘土作品実演販売

フォーラスでの似顔絵コーナー

この他、2021年より参加している仙台市のフードドライブ事業にて、引き続き運搬団体として週1回月曜日にイオン仙台店と藤崎百貨店から、2週に1回金曜日に仙台市市民活動サポートセンターからの食品回収をボランティアとして継続している。食品回収には5～6名のスタッフが、賞味期限のチェックにはさらに5名程度のスタッフが参加している。食品ロスへの関心や母子世帯、外国人留学生など、フードバンクを利用する方々が置かれている現状への理解の深まりとともに、「自分の仕事。」「誰かの役に立てている。」という声が聞かれ、主体的な関わりが見られた。

施設外での取り組みとして、昨年に引き続きNPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会が実施するピアサポーター養成講座を3名のスタッフが受講した他、Aiを拠点とするピアサポーターの集いへの参加など、ピアサポートへの関心へと繋がった。また、仙台市社会福祉協議会と仙台市障害者福祉協会の事業である企業や市民向けの「仙台市障害理解サポーター養成研修」の派遣講師としての活動にスタッフ1名が参加し、十数回の講師活動を行った。ピアサポート活動は当事者研究へと繋がり、来年度は「浦川べてるの家」主催の当事者研究会への参加や、当事者研究全国大会の実施団体の一員として活動を広げていく方向である。

また、高次脳機能障害講習会での講話や、ほっぷの森～月一カレッジでの講演など、自身の経験を通した活動を行った。



高次脳機能障害講習会でのたかPさん



月1カレッジでの市川洋一さん

南三陸町歌津支所では、長年南三陸の古生物を研究し、レポートやオリジナルの魚竜キャラクターを生み出した安藤さんの作品が展示された。



南三陸町歌津支所での展示の様子

長町の駄菓子店「ハトヤ」店主との10年以上にも渡る交流から生まれた「出張ハトヤ たかびい商店」は、Ai主催の企画のみならず、河原町マルシェやとみやっこプレーパークなどの地域交流やこどもの居場所作りへと広がっている。この他、マイナビレディース試合会場でのボランティア活動やファッションショーでのモデルとして5名のスタッフが参加するなど、事業所内での活動に留まらず、それぞれの関心や個性、能力を生かし、個々の可能性が大きく広がっている。



河原町マルシェの様子



マイナビレディースでのボランティア活動



DATENA SENDAI COLLECTION



たかびい商店の様子(お花見マルシェにて)



(ボスコオーレ仙台ホームゲームにて)

互いの事業所を行き来して交流する取り組み『交換留学』は、仙台市内にある「わらしべ舎 羽黒台工房」と「たむたむ舎中山工房」と協力して実現した。



交換留学「わらしべ舎 羽黒台工房」にて



アート・インクルージョンにて(わらしべ舎のメンバーとともに)

(2) Aiファクトリーの運営

2023年度の月別平均利用者数は以下の通り。(通所、在宅の合計)

4月27人・5月27人・6月25人・7月25人・8月25人・9月22人・10月24人

11月26人・12月25人・1月21人・2月23人・3月22人

プログラム内容

パートナーとスタッフでつくるプログラム、外部講師とのワークショップ、Ai主催事業の企画・運営、他団体・地域の主催事業などへの参加を行った。

① パートナーとスタッフでつくるプログラム

- ・ 朝の会、帰りの会
- ・ 制作タイム
- ・ 商品作り
- ・ アート・プログラム
- ・ コミュニケーション
- ・ フリートーク
- ・ 本の時間
- ・ アロマテラピーのワークショップ
- ・ パフォーマンスデー
- ・ ストレッチ
- ・ 人形劇
- ・ 映画デー
- ・ ステージ練習
- ・ 女子会、男子会



女子会の様子



男子会の様子



アロマテラピーワークショップ

②外部講師によるワークショップ

・手話 (zoom利用)・・・月1回

講師の穀田千賀子氏にご協力頂き、上半期はオンラインでのプログラムを実施。スタッフが手話を日常に取り入れられるように、挨拶や日付、曜日などを学んだ。下半期には新型コロナ前と同様に事業所内でのプログラム実施に移行し、「やさしさに包まれたなら」、「きよしこの夜」などの歌を題材に用いて、楽しく取り組めるプログラム作りにご尽力いただいた。

・音楽1・・・月1回

講師の及川久美子氏にご協力いただき、体や顔のこわばりをほぐすストレッチや発声練習を実施。リラックスして参加ができる雰囲気の中、様々な楽器を用いて、リズムを楽しむプログラム作りを実施いただいた。また、橋姫伝説ミュージカルの新バージョン制作において、挿入曲や効果音の制作などの演出にご尽力いただいた。楽楽楽文化祭ではピアノ演奏でご参加いただいた。

・音楽2・・・月1回

講師の本郷由起子氏にご協力いただき、発声練習やリズム遊びなど、楽しく参加ができるプログラムを実施いただいた。一人一人の個性やペースに合わせて様々な題材を提案いただき、枠にとらわれない表現の時間作りにご尽力いただいた。

・クレイ粘土・・・月1回

講師の松並京子氏をはじめ、井上節子氏、渡辺久美子氏にご協力いただき、粘土を使った制作を実施。スタッフとのコミュニケーションを大事にした関わりや、それぞれのスタッフの個性に合わせた細やかな気配りなど、スタッフが安心して取り組める環境作りにご尽力いただいた。制作した粘土作品は、ウェルカムパーティでのブローチやフードバンク東北あがいの熊手やアロマリースワークショップにて装飾パーツとして活用した。

・クリニカルアート・・・月1回

講師の小野寺良枝氏にご協力いただき、スタッフの個性やペースに合わせたコミュニケーションやスタッフが取り組みやすい制作方法を細かく研究いただき、様々な技法を取り入れたプログラムを実施いただいた。毎回異なるテーマをご提案いただいたことでスタッフの関心も大きかった。



・ことはアート

講師の渡辺祥子氏にご協力いただき、ことばを、呼吸、表情、発声、リズムなどを使って全身で表現をする新プログラムを実施。スタッフ一人一人と対話をし、集中力を育む働きかけにご尽力いただき、スタッフ皆が同じペースで取り組むことができた。スタッフが中心となって創る「おむすびころりん」のAiバージョンも完成した。

・タイルアート&スイーツアート

講師の森敏美氏にご協力いただき、モザイクタイルを使った立体作品を制作。また、愛子氏による粘土で作るスイーツアートワークショップを実施いただいた。美しいタイルや愛子氏による手作りパーツを用意いただき、配置を考えながら制作することや見た目の美しさを楽しみながら実施した。



・身体アート・・・月1回

講師の渋谷裕子氏にご協力いただき、ストレッチや体を意識したプログラムを実施。個々の持つ個性や感性を引き出すような働きかけにご尽力いただき、互いの動きを感じ取ることで、相互コミュニケーションへと繋がり、表現力を高める時間となった。

・凧作りワークショップ&藍のたたき染めワークショップ

講師の矢吹重光氏に協力いただき、折り紙で作れる凧作りワークショップを実施いただいた。スタッフの制作ペースやそれぞれの希望に合わせた作業工程や材料、デザインの提案をいただき、普段ワークショップに参加をしないスタッフが参加するなど、楽しく取り組める雰囲気作りにご尽力いただいた。また、藍を使った叩き染めでは初めての染物を体験した。

・運動の時間・・・月1回

講師としてフットサルチームヴォスクオーレ仙台のコーチにご協力いただいた。ストレッチや筋力トレーニングをはじめ、ボールや障害物を使い、きつ過ぎず簡単すぎない、程よい負荷の運動を行った。スタッフの体力やペース、反応に合わせて、楽しく取り組めるプログラムの考案に尽力いただいた。

・絵本のとびら・・・月1回

講師の村松由里子氏にご協力いただき、毎回3冊の絵本を読んでいただいた。絵本から感じ取った気持ちを皆で共有し、それぞれの視点や価値観に触れる機会となった。来年度は新しい試みとして、村松氏による「絵本の朗読」とスタッフによる「演奏」を融合したことばと音の表現に取り組む予定である。



・ダンスの時間・・・2024年3月実施

講師の今野慎一郎氏にご協力いただき、2024年度からの新プログラム導入に向けてプレワークショップを実施いただいた。さまざまな曲を流しながら楽しく体を動かし、交流の場となった。2024年度からは月1回のペースで実施予定である。

③Ai主催事業の企画・運営

- ・アート・インクルージョン2023
- ・オンライン展覧会 & ライブ&トーク
- ・Aiどんどこ市
- ・Aiファクトリー@一番町
- ・Aiオープンスタジオ
- ・アートとしごとラボ2024
- ・うめえなあ〜お花見マルシェ
- ・瑞宝太鼓公演



Aiどんどこ市挨拶まわりの様子



Aiどんどこ市



Aiどんどこ市





瑞宝太鼓公演



アート・インクルージョン2023本祭



うめ～なぁ～ お花見マルシェ2023

④他団体・地域の主催事業への参加、受注作業

- ・ みんなのマルシェin ブランチ仙台
- ・ 勾当台公園福の市
- ・ ふれあい製品販売会
- ・ Fujisaki Day
- ・ 見本市
- ・ せんだいクラシックフェスティバル展示
- ・ 人形劇ワークショップ
- ・ 暮らしの市
- ・ 河原町マルシェ
- ・ 楽楽楽文化祭2024
- ・ とっておきの音楽祭
- ・ スペースゼロ・アーティストとアート・インクルージョンの表現者たち
- ・ ウェルフェア仙台2023
- ・ SDGSマルシェ
- ・ DATENA SENDAI COLLECTION
- ・ びすた〜り榴ヶ岡での展示・販売
- ・ 小さな小さな美術館展示
- ・ 仙台七夕わたあめ販売
- ・ スロウ日和
- ・ ベガルタ仙台ホームゲームでの出店
- ・ ボスコオーレ仙台ホームゲームでの出店
- ・ 子どもアート食堂
- ・ 受注作業(エファシスト プロテイン袋へのシール貼り)
- ・ 受注作業(サボコマース 飴のラッピング)



とっておきの音楽祭 2023



ドッグフェスティバルinブランチ 仙台成田夏祭り



市民広場 福の市



ベガルタ仙台ホームゲームでの販売



ヴォスクオーレ仙台ホームゲームでの販売



仙台セタでの販売(七十七銀行一番町支店前)



Fujisaki Dayディスプレイ(藤崎百貨店) スロウ日和でのワークショップ



楽楽楽文化祭2023

⑤その他の活動

- ・ 東北楽天ゴールデンイーグルス試合観戦
- ・ お花見
- ・ 仙台市科学館
- ・ 仙台市緑化フェア
- ・ 長町街歩き
- ・ 株式会社AZOTH見学
- ・ 地底の森ミュージアム
- ・ 河原町消防署訪問
- ・ 雁の埦入り見学ツアー
- ・ クリスマス会



東北楽天ゴールデンホームゲーム観戦



長町街歩き



緑化仙台フェアにて



とっかえひっかえすりかえ展にて



地底の森ミュージアムにて





株式会社AZOTH見学



仙台市科学館



クリスマス会



河原町消防署にて



雁の埧入り見学会(化女沼にて)

3. アートによる交流・協働事業「つなげる事業」（アートプロジェクト事業）

(1)Aiを拠点とした交流・協働事業

① Aiオンライン企画とAi GALLERYでの展示企画

コロナにより、アート・インクルージョンの発信・交流拠点Ai GALLERY・Ai STUDIOの通常運営が難しくなる中、それでも表現したい、発信したいというスタッフからの強い要望により、2020年6月から月1回ペースで試行錯誤を重ねながら、オンライン配信企画を2023年度は11回開催、2024年3月までの累計では42回を開催しました。

最初は少数だった出演者もじょじょに増え、それにともなってコンテンツも歌やダンス、トーク、オンライン展覧会、ライブペイントのほか、リアル企画の中継、国内外からの映像レポートなど、実に多様な表現からなる企画へと変貌を遂げ、出演者もご家族やアートインクルージョンに関わる方々など多様な広がりを見せてきました。一方で、開始から3年がたち、毎回「こなしている」感も見えて来ています。かといって「やめたい」という要望もないので、これまで週末に行っていた配信日を次年度からは平日に移してみたいと思います。

前年度まではほぼ毎回フィーチャリングアーティストを決め、オンライン個展というかたちでその表現が生まれたバックボーンを家族の証言などももとに掘り下げるような企画を行ってきましたが、コロナが収束してきたことを受け、今年度は閉じていたAi GALLERYを一般にもオープンし、リアル個展とオンライン配信とを連動させていく方向を探りました。

<オンライン企画開催実績>

配信日	「タイトル」 フィーチャリングアーティスト	アーカイブアドレス リアル個展の開催有無	5/15現在の再生数
2023/4/29	Vol.32 「SHOWA」	https://www.youtube.com/live/i-_zWfSi7Qo?si=JYoC-mffMgcVVdo2 なし	304
2023/5/20	Vol.33 「michiko DAY」 michiko	https://www.youtube.com/live/UHC26nP44cg?si=tm5d9Zt-XBk9Xqm2 あり	296
2023/6/24	Vol.34 「クレイ ミュージアム」 アニマル・アーティスト	https://www.youtube.com/live/RUHyKL4bTdk?si=hCul1AOaLFEqlcQb なし	318

2023/7/22	Vol.35「ボノロゴ・アート・プロジェクト」 なし	https://www.youtube.com/live/LfV0msCVb6s?si=sDdX6YluIXKZzD6Q なし	<u>305</u>
2023/8/26	Vol.36「Summer Vacation」 なし	https://www.youtube.com/live/obfs9DHPVvc?si=E7MH5Uo2B_KQP7MH なし	<u>269</u>
2023/9/3	Vol.37「妄想エンジン全開展」 妄想エンジン全開娘	https://www.youtube.com/live/OhsPZsteyWU?s=i=fNeSF8ac_J3HMOMA あり	<u>251</u>
2023/10/14	アート・インクルージョン2023 「Ai本祭」 なし	何度か修正したものの、その都度著作権に抵触し 現在非公開 なし	
2023/11/3	Vol.39「古生物たちに背中を押されて」 海魚爬Ton	https://www.youtube.com/live/Y6Sc-viVq6Q?si=pL3FnZNPALvAKObo なし	<u>318</u>
2024/1/20	Vol.40「Madofuwa誕生祭」 Madofuwa	https://www.youtube.com/live/8HPTAmvyfWg?si=vl6raB27JCDrdS3E あり	<u>422</u>
2024/2/24	Vol.41「ほっぷの森フェスティバル プレ」 ほっぷの森と共催	https://youtu.be/U0oPVMvhirE?si=sO4-4RYg0aKgKmZ5 あり	<u>252</u>
2024/3/23	Vol.42「Y・S ペーパーアート」 Y.S.	https://www.youtube.com/live/diDV9l3D5gk?si=V5_SE3lR5j1-lDdb あり	<u>164</u>

< Ai GALLERYでの展覧会開催実績 >

企画名	会 期
michiko個展 「ぱわーすぽっと」	5/20～6/10
加藤育央個展 「マイ・ドリーム・コンサート」	6/20～7/29
「妄想エンジン全開展」	9/6～23

「Madofuwa 展」	1月上旬～末
「ほっぷの森フェスティバルプレ」	2/1～2/29
「Y.S.ペーパーアート展」	3月上旬～末



「妄想エンジン全開展」



Aiオンラインライブ

② Aiオープンスタジオ

<開催実績>週末・祝日等の11時～16時。2023年4/15、4/23、5/5、5/28、6/3、6/24、7/29、8/13、8/26、8/27、9/9、9/23、9/30、10/28、11/3、11/26、12/24、12/31、2023年1/8、1/20、2/24、3/3、3/23、3/31の合計24回開催。

当初は「Ai週末アトリエ&カフェ」の名称で、「アート・インクルージョン・ファクトリー」の施設Ai GALLERY・Ai STUDIOを活用し、対象をスタッフに限定せず一般に開放し、制作や交流、発信の場として活用、仙台におけるユニークなアート発信交流拠点を形成していく」ことを目指し、2020年4月スタートを予定していましたが、コロナの感染状況の悪化により、2020年9月からスタート。「Ai週末スタジオ」として月1回のペースで開催。2021年9月からは、これに加えて、「Ai週末アトリエ」の名称で月にもう1日増やし、合計月2回開催。2022年度からは「Aiオープンスタジオ」の名称に統一し、週末や祝日、長期休暇などでアート・インクルージョン・ファクトリーが閉所している日に月2日程度開催。

これまで「何かをしなくてはならない」ことが暗黙のルールだった創造の場に、「何もしなくてもいい場」という選択肢を持ち込んで開催しています。ヒントとなったのは、「ドクメンタ15」の芸術監督に選ばれるなど世界的に高い評価を得ているインドネシアのアート・コレクティブのありようです。これと、市民が創造する権利を有するという文化民主主義の考え方に基づ

いて生まれたイギリスのコミュニティアートとをミックスするかたちで「Aiオープンスタジオ」のコンセプトはスタートしています。

来場者・利用者としては、Aiスタッフやその家族のほか、他の福祉サービス事業所に通う人などで週末の居場所を探している人やアート・インクルージョンに来てみたかったという人（福祉関係などの職員、通所を希望する人など）など。

利用の仕方としては、絵を描いたり、音楽を作ったり、歌ったり、スマホを見たり、だらだらしたり、話をしたり、打ち合わせをしたり、見学をしたりというほか、ファッションショー「DATEコレクション」のウォーキングレッスン、「きらりの集い」の打ち合わせ、放課後デイ「ふるれ宮城野」の活動（8/26）、フェアトレード団体「パレスチナ・オリーブ」によるジャーナリスト小田切拓さんを迎えての講演「パレスチナを知る」（10/28）などでも利用されました。22年度からは「Aiキッチン」として、その場に居合わせた人で作りたいものを決め、料理をして食べるという場も行っていますが、2023年度は12月31日にみんなでお雑煮を作り、年越しそばを食べました。

「そんな場があるとは知らなかった」といった声も多く、もっと定期的なスケジュールを組んで、だれでも食堂のような企画も行い、広報活動もある程度しっかり行なうことで、年齢や性別、国籍、障害のあるなしやアートの知識やスキルのあるなしにかかわらず、誰もが集える場としてしっかりと土台をつくっていくべきではないかと考えています。



大晦日に開いた「Aiオープンスタジオ」とそこで作ったお雑煮と年越しそば

③ シェアスペース事業

使っていない週末の施設をシェアスペースとして提供していく事業。ドレミ音楽教室に月1回ペースで活用いただきました。

(2)地域と協働したアート・プロジェクト

Aiを拠点としたアート・プロジェクトと両輪の輪とも言うべきなのが地域とのアート・プロジェクトです。コロナでいったんストップしていた商店街や文化施設、アーティスト、他団体との連携が本年度は本格的に再開しました。

①一番町でのアート・プロジェクト

①Aiファクトリー@一番町

アートインクルージョンの日常自体を「展示」してしまおうというコンセプトで行われた2021年3月のせんだいメディアテークでの「アート・インクルージョン展」や、2022年の仙台国際センターでの「日本てんかん学会」で実施した企画は、来場者に大きなインパクトを与えました。

その日常的な営みとして、アート・インクルージョンが位置するぶらんど〜む一番町アーケードにテーブルを出し、公開制作とグッズ販売を行う本事業は、道ゆく人との偶然の出会いがアートを介してコミュニケーションを生み出す地域との「扉」になっています。

【コンセプト】ここが私たちの地元です。

性別や年齢、国籍、障害のあるなしなど、あらゆる「ちがい」をひとりひとりにとっての大切な「キャラクター」ととらえ、その「多様性」こそが社会を豊かにしていくという考え方はすでに世界のスタンダードになっています。

アート・インクルージョンは、2017年からここ一番町に事業所をかまえ、さまざまな「ちがい」を「アートな仕事」にしていく活動をしてきました。事業所の目の前というまさに「地元」であるぶらんど〜む一番町アーケードにテーブルを出して自分たちの制作のようすを公開し、それによって道ゆく人とのコミュニケーションを生み出していきます。

障害があると言われていた表現者たちが日頃どう過ごし、どんな活動をしているのかを見せ、さらにはそこに参加できる場は、これまでの価値観を180度転換するものです。それは障害というものについての見方を変え、アートへの見方を変え、商店街の役割を変えていきます。

商店街の協力を得ながら、2021年度は青葉区まちづくり助成事業、2022年度は釋海心基金を活用。本年度はリコーの社会貢献クラブ「Free will」からの助成を受け、「一番町は私のスタジオ」との副題をつけて3回実施しました。各回、フォーカスする表現者を決めての展示企画も行いました。



以下にFree willへの報告を転載します。

●9月20日（水）小野統也「良かったです。」

武器の展示

アーティスト自身が他の人に自分で作品の説明をするのが「恥ずかしくて難しい」とのことだったので、設置は自分で行き、アーケード内を通りかかる方に見て頂く。

また、作品を背景に入れた映像撮りを行った。



●9月20日（水）妄想エンジン全開娘「絵が飾れて良かったです。嬉しかったです。」

絵の展示、個展の宣伝

通りかかった人が足を止めて「この絵の人、知ってるよ！」と声を掛けて頂いたり、個展の案内をするとそのまま3階へ上がって頂き、個展を見に来て頂くこともあった。NHKの方が通りかかり、後日取材をして頂けることにも繋がった。



●11月1日(水)Madofuwa「いろんな人に見てもらえた」

プリント額絵5点・クレイ粘土作品

(感想)

お客さんやAiの人に見てもらえてよかった。外国の客さんに作品を見てもらってお話しして楽しかった。展示のことを事前にお母さんに伝えていたので、来てもらえてうれしかった。お母さんは「よかったよ。」と言っていた。いつもと変わりなく緊張せずに外の展示の会場で過ごすことができた。また展示してみたい。

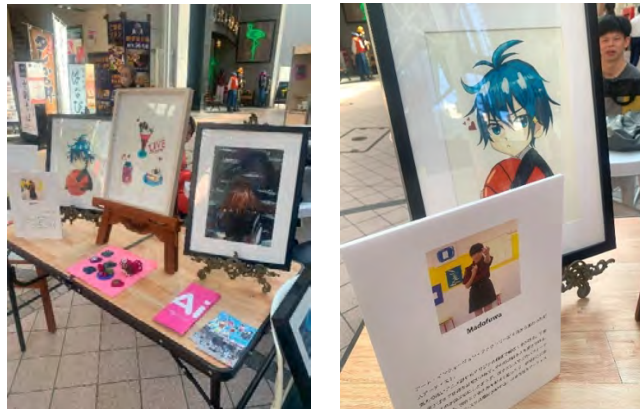
(青山感想)

展示作品はオリジナルの作品5点を自分で選択しました。特に「月と海」という作品は今までに描いたことのない作風に挑戦したので展示したいと真っ先に選ばれていました。

当日は作品を見てくださる方とコミュニケーションを楽しんでいる様子がありました。お客さんからは絵に対する反響も多くありましたが、クレイ粘土作品がLOVEというテーマだったこともあり、外国の方から「いいですね。大事ですね。」と反応がありました。母親や相談員の大友さんが見に来てくれた事を喜んでいました。母は、「月と海」の作品を見て「これが一番好きです!」「こういう作品を今までは描いていなかったから、こういうのも描けるんだと思ってびっくりしました。」と感激されていました。

この言葉をMadofuwaさんに伝えると、「そうなんですね!嬉しいです!」ととても喜ばれていました。

終日作品の前で過ごしましたが、リラックスした様子で他のスタッフと交流しながら過ごしました。今後も展示をしたいとお話しされていました。



●その他

仙台に出張で通りかかったという紺野さま（株式会社こんの）から、障害雇用の話や、障害者が描いた絵に興味があるとのことで交流が生まれた。

②「Aiどんどこ市2023」

「Aiどんどこ市」は2013年、勾当台公園を会場にアート・インクルージョンがコーディネーター役を務め、地域の福祉事業所の工賃アップや相互交流を目指した取り組みとして始まりました。2014年からは仙台放送祭りと共催し、多数の福祉事業所・アーティスト・クリエイターと連携し、日頃交流のない人々が互いの活動を知るとともに、多くの市民に活動を紹介する場として成長していきました。その後、ぶらんど〜む一番町アーケードへの移転をきっかけに、2018・2019年は約30団体による活動展示・販売、25組のアーティストによるステージとアートワークショップを5月末の週末に2日間開催しました。その後、コロナ拡大により、2020年は中止、2021年度は感染状況が落ち着いた10月31日にサンモール一番町で開催、2022年はステージは見送ったものの、再びアート・インクルージョン前のぶらんど〜む一番町で開催。

これを受け、本年度はぶらんどーむ一番町で大々的に開催した。マルシェへは仙台市内の福祉サービス事業所を中心に、手作り作家など33団体・人が参加。ワークショップはリコーから提供された大型の段ボールを使ってどうなるかわからないワークショップ（最終的に巨大な秘密基地づくりに）のほか、せんだいメディアテーク雑がみ部やDIY STUDIOなど10団体が企画を実施。このほか、エイブルアートジャパンによるパレード、スタンプラリー、ヴォスクオーレ仙台や第501軍団の参加など、ネットワークを駆使した新たな企画の創出も見られました。ステージについてはストリートでは行わず、アート・インクルージョンのギャラリーを使っのオープンステージというかたちで実施しました。

ぶらんどーむ一番町アーケードを端から端まで使い、参加団体が相互交流を行い、市民がさまざまな切り口でそれぞれの楽しみ方を模索できる実におもしろい場になりました。これはまた、フォーラスの閉店もあり、商店街としての吸引力も低下している中、商店街の魅力発信のひとつの切り口となりうる事業になってきています。東日本大震災前から、全国各地の商店街では同様の危機感に直面し、単なる商いの場から、市民交流や舞台、文化拠点としての機能を商店街の活路として模索してきた経緯があり、私門脇も2006年から船橋市本町通り商店街全域を使って年2回行われている事業などに参画してきましたが、仙台の中心部では特にそうした危機感や新たな切り口の創出といったものを見かけずにきました。これは東日本大震災が東北の中心地仙台を支えたことにより、かえってこうした危機感に直面することなくやってこれてしまったのかもしれません。ひきつづき、私たちが目指すことをやりながら、そうしたニーズにもそなえていきたいと思います。



②長町でのアート・プロジェクト：アート・インクルージョン2023

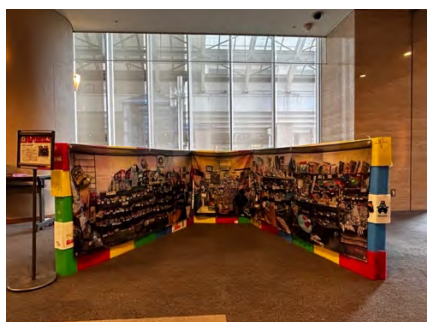
2010年の初回から数えて14回目となる「アート・インクルージョン2023」を仙台市太白区長町一帯で10月の一ヶ月間、開催しました。

せんくらとの連携企画

「楽都仙台」の「看板」のひとつとも言える仙台クラシックフェスティバルとの連携事業として、2015年から太白区文化センター楽楽楽ホールホワイエでの展示を担当しています。2015～2019年の5年間にわたり、「音を出さずに音をテーマとした体験型のアート企画」をコンセプトとした作品制作を行い、「かぶれる音符」「着られる弦楽器」「のばせる管楽器」「入れる鍵盤」「抱きギター」など数々の名作を生み出して来ましたが、2020年はコロナで休止、2021年・2022年はコロナで接触するものを避けなければならないことから、アートインクルージョンの表現者の作品やコラボレート作品を前面に押し出したグループ展形式での企画を提案し、これを開催してきました。

本年度は長町の商店街での企画を本格的に再開したことから、「長町」をテーマにすえ、長町をテーマに制作したフリーペーパーのためのスケッチの原画や、2024年5月に閉店した名物駄菓子展「ハトヤ」の10分の1モデルの展示、高架化が進んだ長町で電車が見られる場所を探し、映像にした「長町電車スポット」を展示しました。

観客はコンサート前後に作品を鑑賞し、楽しんだようです。せんくら担当者も「今年はこう来たか」と毎回の切り口の変化を楽しんでいただきました。



Ai month (2023年10月1日～10月31日)

コロナのために、2020～21年度の2年間、休止してきた商店街10数店舗との連携企画「Ai month」でしたが、2022年から新たにパートナーに加わった高倉悠樹を中心に再開。本年度は、個々のお店をテーマとしつつも、全体をつなぐコンセプトとして、「水辺の長町」「うつりゆく長町」「線路から見る長町」などゆるやかなテーマを設定し、個々の企画の間のつながりをつかみながら制作プロセスを進めていきました。

・会場：食堂び〜わん、だがしハトヤ、赤井沢長町本店、ファッションウェアたむら、びすた〜りフードマーケット、cafe JHO JHO、菓子工房セレブレ、太白区文化センター（合計9店舗）

・企画一覧

テーマ	アーティスト	タイトル	企画内容	展示・上演場所
水辺の長町	小野統也	むかしここには競馬場があった	かつて長町にあった「仙台競馬場」（通称「長町競馬」）をテーマにしたリサーチと作品制作。長町市民への聞き取りをしながら、空想の長町競馬を現代に出現させる	・食堂び〜わん ・せんくら
	高倉 King. K 白戸健 コウセイ 妄想エンジン 全開娘 せこ三平 印度孔雀	長町の水辺をあ るくフリーペ ーパー「みずもう たうよ」	フリーペーパーを制作し、協力店舗に設置する。素材はそれをもとに展示企画にしていく 高倉(詩文・写真) King K(風景画)：木流堀、広瀬橋 白戸健(風景画)：広瀬橋 コウセイ(ウォーキング、写真・映像記録) 妄想エンジン全開娘：じゃぶじゃぶ池 せこ三平：人柱コラム	フリーペーパー設置場所：たいはっくる、ハトヤ、食堂び〜わん、赤井沢、ファッションウェアたむら、協裕堂書店、鶴の湯 展示：せんくら
	Aiファクトリー	橋姫伝説ミュージカル	長町に伝わる人柱の伝承・橋姫伝説をベースに、現代における「人柱」をテーマにした2019年初演のオリジナルミュージカルを、さまざまな人の手でさらにバージョンアップさせていく	長町駅前広場
線路から見る長町	松音くん×由宇	長町電車スポット	長町で電車が見える・聞こえる・感じられるベストスポットを探す。撮影したり、あれこれ批評したりし、それを映像にして公開する。	・赤井沢（画像）
				・YouTube（映像）
販売企画	Aiファクトリー	Aiマーケット赤井沢ランチ	Aiグッズを販売	赤井沢

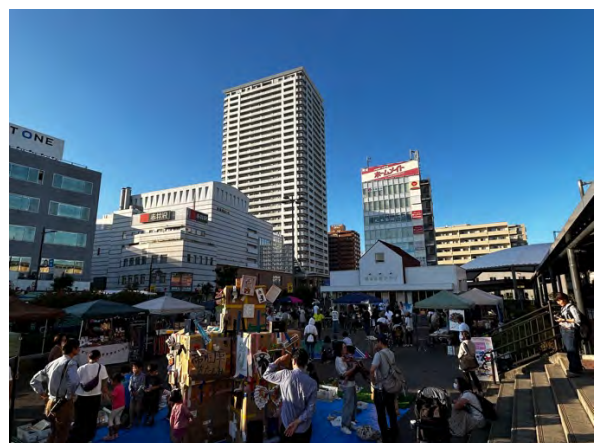
うつりゆく長町	たかピー 高倉 門脇	ハトヤ物語	来年閉店するハトヤをテーマに、3人の表現者が絵日記、テキスト、映像、語り、音楽などさまざまなメディアでそれぞれの「ハトヤ物語」を制作する。	・ハトヤ ・note https://note.com/takap_hatoya/ ・せんくら
	yuka*	仙台のローカルアイドルyuka*の「今日もNAGAMACHIからお送ります」	仙台のローカルアイドルとして長町のオスメスポットを紹介する番組を制作する ・橋姫明神 ・ハトヤ ・人柱体験ほか	YouTube（未完）
	Saiko×有子	ながまちものがたり	長町で育ったSaikoさんの中に浮遊する「ながまち」と、お母さんに聞き取りしたその解釈による「ナガマチ」とをもとに歌につむいでいく。またその情景をSaikoさんのタッチでジャケットを制作。 同様にして、長町市民の中に降り積り、漂う「ナガマチ」をすくいと、つむいでいくプロジェクトを生み出していく	・配信各ストアよりリリース
	michiko	スイーツ日和	セレブレのケーキやmichikoオリジナルパフェの立体作品などの展示	菓子工房セレブレ
	まい	NAGAMACHIまいそと	長町の写真とまいの文章を組み合わせた投稿をSNS上で期間中、連日発信していく	Facebook、Instagram、Twitter
	madofuwa	人気キャラクター大集合	長町小学校向かいにある町の掲示板に人気キャラクターが増えていく	ファッションウェアたむら
ほっぶの森とのコラボ企画	ほっぶの森カレッジスタッフ（10数名）	マイ・ライフ	ほっぶの森カレッジの「表現のプログラム」で生まれた表現を展示。スタッフがペアを組んで、お互いの人生を聞き取りしたものを詩にし、それを絵で表現したものなど	・cafe JHO JHO ・びすた〜りフードマーケット
せんくらとのコラボレーション企画	小野統也	むかしここには競馬場があった	競馬場のインスタレーション	楽楽楽ホールホワイエ
	King.K	水辺のスケッチ	長町の水辺のスケッチを4点程度展示	
	たかピー商店	1/5ハトヤ	1/5のハトヤをつくる	
	フリーペーパーチーム	フリーペーパー	水辺フリーペーパー ハトヤものがたり(1部ずつ刷って手に取れるようにする) King.Kの原画(4枚) 白戸健の原画(1枚)	

	松音くん×由宇	長町電車スポット	長町で見ることができる電車のサイレント映像	
びすた〜りと のコラボ企画	海魚爬トン	海魚爬トン個展	Ai2023フライヤーのための書き下ろしイラストのほか、全7点を展示	びすた〜り榴ヶ岡



2020年からコロナのため、マルシェは長町駅前広場で行い、ステージはオンラインで行い、これを会場に配信するというかたちをとってきましたが、2022年はすべて長町駅前広場でリアル実施する一方で、コロナの中で培ったハイブリッド形式を活用、リアルステージのよすをオンラインで配信するというかたちをとりました。本年度もこれを踏襲し、実施しました。

マルシェには16団体が出店。ステージはアート・インクルージョンの表現者たちを中心に14人・組が出演。トークにはインドネシア・ポノロゴから映像作家のグローラ・ユスダワラ氏が参加し、インドネシアのアート・コレクティブの状況やアート・インクルージョンで過ごした体験、Ai monthを視察した感想などを語りました。ワークショップは6月に行った「Aiだんどこ市」で来場者とともに作り上げた「秘密基地」を再構築。作って遊ぶというコンセプトでの活動を行いました。



(3) 国内外の他団体・企業との交流・協働事業

① NPO法人ほっぷの森との連携事業

①常設展示

長町時代よりびすた〜りには展示場所やステージ発表の場を提供してもらっており、フードマーケット、café Jho Jhoにも常設展示の場を提供していただいています。2021年からは代表理事菊田氏が当法人の理事に就任。2021年夏からは、音楽プログラムを担当する及川久美子氏のにじのさかなプロジェクト企画で「マンスリーコンサート」のおりに壁面を飾る展示を担当しています。本年度も毎月、アート・インクルージョンの表現者を個人もしくはグループで取り上げた展示を行ないました。Ai GALLERY以外でアート・インクルージョンの表現者たちが作品発表をできる常設展示の場として貴重な場になっています。

また、門脇がほっぷの森理事に就任し、2023年度からは「ほっぷの森カレッジ」副学長を務めています。2021年度後半から始まった「表現のプログラム」では、アート・インクルージョンで培った知見を活かし、さまざまな表現活動に取り組むとともに、アート・インクルージョンのスタッフやパートナーが参加して共同制作も行なっています。10月の一ヶ月間、長町一帯でアート・インクルージョンが行った「Ai2023」では、びすた〜りフードマーケットとcafé Jho Jhoで作品展示を行いました。

②ほっぷの森フェスティバルプレへの参画

2024年2月にほっぷの森が行った「ほっぷの森フェスティバルプレ」では、市内5箇所の展示会場のうちのひとつとしてAi GALLERYが使われたほか、ほっぷの森本部を会場に行われたトークやステージにはアート・インクルージョンのスタッフが出演し、フェスティバルを大いに盛り上げました。



③ほっぷの森カレッジ「月いちカレッジ」への参画

ほっぷの森カレッジ渡辺祥子学長が本年度からスタートさせた「Sunday月いちカレッジ」は、週末のほっぷの森を活用し、さまざまな講師の講義を聞くことで「人生の見方がかわる」広い意味での市民の学びの場です。その場に集まった人だけでなく、場所や時間をこえて多くの人に共有していくため、映像アーカイブを作ってはどうかとアート・インクルージョンから提案し、毎回、撮影、編集、発信を担当しました。

一般公開されている月いちカレッジの映像はこちら

<https://www.youtube.com/@hopnomorcollege>

② NPO法人ふうとばんく東北AGAINとの連携事業

①フードドライブの回収

藤崎デパート、イオン仙台店、仙台市市民活動サポートセンターのフードドライブの回収をアートインクルージョンで毎週行ない、AGAINへと受け渡ししています。また、緊急食料支援が必要な人をAGAINにつないだり、フードバンクの取り組みを伝えることなどを行ないました。

②とみやっこプレーパーク

2023年度から毎週金曜日の午後、富谷市でAGAINが主催して始まった「とみやっこプレーパーク」に8月からアート・インクルージョンのパートナーやスタッフが参加し、他団体やボランティアのみなさん、ご家族などとともに、プレーパークの準備や運営、片付け、企画、フライヤーの制作などに関わりました。

【参加実績】8/25、9/15、9/29、10/1、10/6、10/13、10/20、10/27、11/24、12/1、12/8、12/15、12/22、1/12、1/19、1/26、2/9、2/16、3/8、3/15、3/22、3/29（合計22回）

③こどもアート食堂、みやぎこども食堂ネットワーク

AGAINが受託した「2023年度 内閣官房 孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～」に連携団体として参画し、フライヤーの制作やコンセプトの作成、ワークショップの設計、実施を担当しました。

「やって来たこどもが、メニューを選ぶように、自分の興味や難易度に応じたワークショップを選んで参加できるアート食堂」をコンセプトに、①年代、②難易度(簡単～表現活動に興味がある人向け)、③回数(1回完結・3回かけて行うもの)の3つの観点から、バランスよく数種類のメニューを用意し、AGAINが行うひとり親向けのフードパントリーのタイミングで11月・12月・1月の3回実施。多くの参加者を得て、親子でアート食堂を楽しんでいたとともに、パートナーにとってはこども支援・困窮者支援の現場に身を置くとても貴重な場にもなりました。

また、AGAINが事務局を務める「みやぎこども食堂ネットワーク」から宮城県内のこども食堂を紹介する冊子の制作を受託し、制作しました。

③ 仙台市太白区文化センターとの連携事業

① 楽楽楽文化祭2022巡回展

2023年1月に開催した太白区文化センター主催「楽楽楽文化祭2022」のようすを、仙台市内の他の3つの文化センターでも報告する巡回展を2023年3月～5月にかけて行いました。

若林区文化センター：3/9～3/26

宮城野区文化センター：4/14～5/10

広瀬文化センター：5/11～5/29

それぞれの文化センターの展示スペースや共有スペースなどを使い、ワークショップで制作した巨大なダンボールの城「青葉ジョー」をはじめとした作品を所狭しと展示。パネルによる実施報告や映像によるステージの紹介なども行われました。



② 楽楽楽文化祭2023

【会期】2023年12月17日（日）

【会場】仙台市太白区文化センター

【内容・成果】

本事業は太白区文化センターが2018年に開始した同センターの自主事業です。アート・インクルージョンは立ち上げ当初から、「鑑賞型ではない参加型の企画をつくりたい」という同センター担当者の依頼を受け、コンセプトづくりから広報媒体の制作、ワークショップ企画の立案・運営などを担ってきました。

2020年度はコロナで開催が危ぶまれたが、「このまま何もせずに終わらせたくない。文化センターとしてできることはしたい」と同センターの思いを受け、コロナでもできることとしてワークショップとマルシェのみ開催し、ステージはアートインクルージョンからの無観客ライブを中継するというかたちで実施しました。2021年度よりコロナ対策を徹底することで楽楽楽ホールでのステージも復活。2022年度はほぼコロナ前の状態での実施となりました。

こうして迎えた本年度は、2020年にせんだいメディアテークで初めて行い、その後、仙台国際センターやぶらんどーむ一番町で行なってきた、アート・インクルージョン・ファクトリーの日常そのものを展示・体験できる場として「Aiファクトリー@楽楽楽文化祭」を展示ホールでのアート・ワークショップ企画として実施しました。

また、ステージでは長町に伝わる伝説をもとに作ったオリジナルミュージカル「橋姫ものがたり」をリメイクしたものを上演。音楽は和楽器やサックス、ピアノなど演奏家も入っての生演奏を使いました。



Aiファクトリー@楽楽楽文化祭ブース一覧

	ブース名	アーティスト	内 容
1	楽楽楽ツリー	門脇篤	プラスチックダンボールのブロックをデコって、大きなクリスマスツリーをみんなで作ります。ツリーの中に入ったりのぼったりしてあそぶこともできます。
2	水もうたうよ	高倉悠樹ほか	長町をテーマとしたフリーペーパー「水もうたうよ」の第3号と第4号の完成を記念し、フリーペーパーの配布や原画の展示などを行います。
3	Madofuwa・コーセイのイラスト部屋	Madofuwa コーセイ	Madofuwaとコーセイが描いたイラストを展示。また、来場者のリクエストに応じてキャラクターのモノクロ画を作成。来場者に色を塗ってもらい、完成させます。
4	michikoのオリジナルパフェづくりワークショップ	michiko	スライムを作って、ホイップねんどをしぼって、キミだけのアートなパフェをつくっちゃおう！ 限定30人様となります。
5	復活！長町競馬場	小野統也	かつて長町にあったという競馬場をみんなで復活させましょう！うまをつかってレースもできる？！
6	ファミリー・ポートレイト	稲葉篤志	家族や友達の絵を描きつづけている稲葉篤志さんとともに、キミの家族や友達などを描いてはってください。みんなのファミリー・ポートレイトをつくろう！
7	しゅんすけの色彩瞑想室	しゅんすけ	好きな色をゆっくりとぬっていくしゅんすけさんにならい、「何か」を描くのではなく、ただ色を塗ることに集中してみませんか？いつもと違う世界が見えてくるかも？！
8	ミッキーのレタリングスタジオ	ミッキー	独特の文字で読めない漢字を書き続けているミッキーさんを講師に、好きな言葉や偶然見つけた漢字などをキミのオリジナルの文字で書いてみよう！
9	かつつんスタジオ	かつつん	画面を青くぬりつぶしていく技法で独自の世界をつくるかつつんさんにならい、あなたの好きな色で画面をひたすら塗りつぶしていくワークショップ

1 0	自由な折り紙	Y.S.	既存の折り方にとらわれない独自の「折り紙」づくりを行うY.S.さんといっしょに折る折り紙ワークショップ
1 1	KASUMIの制作ブース	KASUMI	描くために生まれて来た生まれながらのアーティストKASUMIさんの作品と制作の様子を公開します
1 2	IKUフェス	加藤育央	理想のコンサートのセットリストを書き続けている加藤育央さんといっしょにキミの夢のフェスのセットリストを書いて展示しよう
1 3	清水敬太の紙芝居部屋	清水敬太	伝説の54枚からなる紙芝居につづく新作「ゼルダの伝説」の制作に取り組む清水敬太さんの紙芝居と制作風景を公開。
1 4	Saikoのアートスタジオ	Saiko	ディズニーやハワイ、お坊さんなどさまざまなジャンルを力強いタッチで描きつづけるSaikoさんの制作風景を公開
1 5	楽楽楽観音堂	石川法然	世界のための祈りの場を作り「ご開帳」を主宰しつづける石川法然が、楽楽楽文化祭のために新たな観音堂を建立。それもマリア像をご本尊にしてしまうというアヴァンギャルドな観音堂です。記念すべき最初のご開帳日の12/17文化祭当日は、お参りやおみくじをひいてマリア観音堂の完成を祝おう！
1 6	仙台のローカルアイドルyuka*のゆめかわルーム	yuka*	仙台のローカルアイドルyuka*の世界にまよいこんだようなゆめかわルームが出現！これでキミもきっとyuka*のとりこになる？！
1 7	みさこのふわふわワールド	みさこ	「ふわふわ」という独自の世界を確立しているみさこの世界を垣間見ることができる作品展示です。
1 8	みちかのファッションショー	みちか	定禅寺通りでLGBTQをテーマに行われたファッションショーに参加しており、みちかが協働して制作し、身につけた衣装をご披露します。
1 9	松音くんの今日も工事中	松音くん	人々に敬遠されがちな工事現場の「騒音」を、毎日帰りに聴きに行くという松音くん。見方を変えることで世界を変えていくことがアートだとするなら、彼のこの「発見」こそアートの名にふさわしい。松音くんとともに収集した工事現場で演奏されるさまざまな音をお楽しみください！
2 0	海魚爬Tonの南三陸へ行こう	海魚爬Ton	古生物と南三陸を愛する海魚爬Tonによる入念なりサーチの経過とそこから生まれた作品とを展示します。
2 1	笙YUUの「雅楽って、なあに？」	笙YUU	雅楽に魅入られた人物、笙YUUが、雅楽の素晴らしさを伝える展示です。笙の実演も行います。
2 2	妄想エンジン全開ルーム	妄想エンジン全開娘	動物と人間の共生をテーマに描きつづける妄想エンジン全開娘の作品世界を紹介する展示。 楽楽楽ホールホワイエでは500円でペットの似顔絵を描きます。
2 3	Ken-Shirato-art room	白戸健	白戸健が描く作品の展示と年賀状制作ワークショップを行います。
2 4	一平展	一平	これまで主にボールペンや色鉛筆で描いていた一平が、突如として筆をとり、生み出した数々の平面を展示します。
2 5	ペットボトルでクリスマス	宮城教育大大学院生	ペットボトルをデコってクリスマスキャラクターを作ろう！

③太白区文化センターノベルティグッズの制作

太白区文化センターから依頼を受け、同センターを描いたポストカードを7種類制作しま

した。



④ わらしべ舎との連携事業

わらしべ舎西多賀工房からの依頼で2016年より門脇が月1回、アートクラブの講師を務め、毎年10名前後の利用者のみなさんとアート活動を行なっています。また、わらしべ舎羽黒台工房が開所してからは月1回程度訪れ、2023年は前庭にある1.2m×3.6mほどのコンクリートの水場の壁面にみんなで壁画を制作。アート・インクルージョンからもyuka*と妄想エンジン全開娘が参加して完成させました。



わらしべ舎西多賀工房でのアートクラブ



わらしべ舎羽黒台工房の壁画制作

⑤ NPO法人地球対話ラボおよびインドネシアとの連携事業

2001年に日本とアフガニスタンの高校生を衛星電話で交流させる事業からスタートし、ITの力で出会えない人たちが会える場を作ってきたNPO法人地球対話ラボ。2013年からは東日本大震災の被災地東北とスマトラ沖地震の被災地インドネシアのアチェとをスカイプで結んでの交流事業を行なってきました。そうした中、門脇が2016年から交流事業に参加し、主にアチェでアートプロジェクトを現地の若者たちと作り上げてきました。それら若者や現地コーディネーターアート・インクルージョンでは2016年から受け入れるとともに、オンラインでの交流や共同制作なども行なってきました。

2020年からは宮城県気仙沼市にインドネシアからの技能実習生が約300人ほどいることから、「気仙沼のインドネシア人」をテーマとした事業を展開。月に一度、気仙沼で「インドネシアカフェ」「アジアカフェ」を開いたり、気仙沼に住む実習生のふるさとでアートプロジェクトを開催したりしてきました。

本年度はインドネシアの東ジャワの町ポノロゴで7月に地球対話ラボが主催して開催したアートプロジェクトのようすを「Aiオンラインライブ&トーク」で現地とアートインクルージョンとを結んでリアルタイムに紹介したり、1時間程度の映像にまとめたものを流したりしました。また、10月に来日したポノロゴの映像作家グローラ・ユスダワラ氏を迎え、アート・インクルージョンで1日過ごしてもらったり、長町一帯で行った「アート・インクルージョン2023」の展示企画を視察してもらったり、「Ai本祭」のトークに参加してもらったりしました。

⑥ 「交換留学」事業

アート企画や商品開発などでさまざまに連携事業を重ねてきたわらしべ舎、多夢多夢舎、そして太白区文化センターとパートナーやスタッフが相互に行き来し滞在する「交換留学」を実施しました。

他の事業所へ行くことでふだんは気づかなかった自分の事業所の環境や活動について気づくことが多々あり、刺激を受けたり、取り入れたりしていく動きが見られました。

太白区文化センターは閉館日に1日滞在することができ、毎年「楽楽楽文化祭」で協働してはしながら、これまで知らなかったセンター内のさまざまな施設や機材を知ったり、実際に使ったりすることができました。

【企画の経緯・趣旨】

私は長年、ひとりのアーティストとして活動しながら、ほぼ常に自分ではない誰かと制作をするというスタイルで生きてきました。そうした中でいつも気になっていたのが、「所属」とか「所属意識」です。

自分の家族とか、自分が所属する組織とか、自分の国とか、そういったものの一部である、という風に自分をとらえることが私はとても苦手です。自分は自分にしか属していない特別な存在であり、世界は私と私以外からしかなくなっていないと思っています。

そう考えるようになったのは、私の生まれながらの何かでもあると思うのですが、組織に属したとたん、その人でなくなる数々の事例（旧日本軍やナチス、数々の官民間わない組織犯罪）や、実際大学を卒業して企業に就職した経験からそう考えるようになり、決して組織のためには動かないようにしようと心に決めて生きてきました。

一方で、インドネシアをはじめ、今アート界で盛んに評価されているのがアート・コレクティブです。アーティストをはじめさまざまな個人が何をするでもなくいっしょに過ごしているうちに何かができたりもする、という集団のことで、いわゆる組織とは明らかに違います。何が違うのかと言えば、まず個人があつての集団であり、その逆では決していないことです。かといって強烈な主体意識をもった西洋近代的な個人ではなく、「ひとりでやるより、誰かとやった方がもっとおもしろい（こともある）だろ？」ぐらいのノリなのに、かなり大掛かりなプロジェクトまでやってしまっているというところがおもしろいわけです。さらにそのゆるやかな関係性自体もさらなる関係性を産んでいきます。つまり、コレクティブのコレクティブ、集団がいくつかあつまった集団の集団というのが生まれ、「エコ・システム（生態系）」と呼ばれています。

たとえば「ルアンルパ」というコレクティブがあつて、そこにトミーが「所属」しているとしましょう。その「所属」というのは、ルアンルパの月1回のミーティングに出て意見を言ったり、ルアンルパの機材やスペースを使ったり、プロジェクトをすることになったら「みんなの壺」から予算をもらい、出た利益からまたいくばくかを「壺」に返すという意味だそうです。別のコレクティブと仕事をしても当然いいし、それは「ルアンルパ」のトミーとしての仕事かどうか、などということは誰も気にしていません。そもそも「ルアンルパ」というコレクティブ自体が他のコレクティブといっしょに場所を借りて、いっしょに拠点を設けたり、プロジェクトをやったりしていて（例えばジャカルタにある「グッド・スクール」は「ルアンルパ」「セラム」ともうひとつのコレクティブが運営する「エコ・システム」）、どこまでが「ルアンルパ」なのかあいまいです。おそらく普通の日本の組織に属している人からしたら、「なんじゃそれは？」「責任は誰がとるんだ？」「なんかあったらどうする？」みたいになるかと思うのですが、個人が自分のやりたいことのためにひとと協働する場が集団や組織であり、集団や組織を存続させるために個人がいるんじゃないと普通に考えれば、非常に合理的かつあまりに理想的です。

障害のあるアーティストたちにとっても事情は同じじゃないでしょうか。「アート・インクルージョン」に属しているから「アート・インクルージョン」の利益のために絵を描かなくちゃいけないという考え方の人は、いないことはないでしょうが、少数派であり、それ自体が行為作品になりそうなほど独創的に見えます。そんなふうな社会の「常識」が反転する場がまさにこの障害とアートの現場なのだから、それを支える事業所自体も、そうした「反転」を自らの「組織」の内にもつべきではないか。それがこの企画の底にあります。

だから「アート・インクルージョン」の門脇として「わらしべ舎」で1日を過ごすのではなく、ただの門脇として過ごし、自分の人生にとって大切なことをそこで探し、行い、そして「アート・インクルージョン」に戻って、やはりただの門脇として自分の人生にとって大切なことを探し、行いつづけたらいいんじゃないでしょうか。「アート・インクルージョン」「わらしべ舎」「多夢多夢舎」が利用者にとってだけでなく、職員にとってもそれぞれの人生を実現する場であり、協働の場になっていくよう連携していけたらと考えています。

【実施実績】 合計14回、のべ60人ほどが訪問

- 5月11日 オンラインで3事業所の担当者によるキックオフミーティング
- 5月25日 アートインクルージョンから多夢多夢舎訪問（松音くん、たかピー、妄想エンジン全開娘、青山、門脇の計5人）
- 6月22日 アート・インクルージョンからわらしべ舎訪問（yuka*、DAIKI、KASUMI、佐々木、門脇の計5人）
- 6月29日 わらしべ舎からアート・インクルージョン訪問（2名）
- 7月6日 わらしべ舎からアート・インクルージョン訪問（2名）
- 7月19日 多夢多夢舎からアート・インクルージョン訪問（3名）
- 7月19日 アート・インクルージョンからわらしべ舎訪問（コウセイ、笙YUU、青山の計3名）
- 7月20日 アートインクルージョンから多夢多夢舎訪問（小野統也、しゅんすけ、菊地の計3名）
- 7月21日 わらしべ舎からアート・インクルージョン訪問
- 8月22日 アート・インクルージョンからわらしべ舎訪問（稲葉篤志、一平、亀岡、門脇の計4名）

- 8月23日 太白区文化センターからアート・インクルージョン訪問（2名）
- 8月24日 アートインクルージョンから多夢多夢舎訪問（市川洋一、yuka*、高倉、門脇の計4名）
- 10月26日 アート・インクルージョンからわらしべ舎訪問（yuka*、妄想エンジン全開娘、門脇の計3名）
- 11月5日 アート・インクルージョンからわらしべ舎訪問（松音くん、門脇の計2名）
- 12月11日 アートインクルージョンから太白区文化センター（海魚爬Ton、市川洋一、白戸健、稲葉篤志、たかピー、小野統也、KASUMI、みさこ、しゅんすけ、アニマルアーティスト、かつん、妄想エンジン全開娘、Madofuwa、松音くん、michiko、Saiko、yuka*およびパートナー）

4. アートによる仕事づくり事業

アートによる仕事づくり事業ではパートナー佐々木桂を中心にスタッフの制作した作品を用いたグッズ・コンテンツを開発。パートナー高橋尚子を中心に自主企画のマルシェ・アートプロジェクトの企画を行い、パートナー洞口真喜子を中心に外部主催販売会へ積極的に参加し売り上げを立てていった。

2020年度から仙台市市民文化事業団の助成を受けて行なっている「アートを仕事にするネットワーク環境形成事業」によって作られた地元のクリエイターや企業、福祉事業所、アーティスト達とのネットワークには「AとW」という名称が付き、AとW名義での仙台パルコ2での出店をきっかけに外部からの出展依頼も増加傾向にある。

(1) グッズ・コンテンツ開発および販路の開拓

プリント額絵、手作りノート、ボールペン、シャープペン、カラフルわたあめ、カレンダー、年賀状、音楽コンテンツ、オンラインライブ、フライヤーデザイン、ウェブデザイン、楽楽楽文化祭でのワークショップ企画運営、みんなのマルシェ、配信業務などコンテンツ開発・販売を行い、主催事業、協力店舗、ネットショップ「Aiマーケット」「Aiマーケットin SUZURI」での販売を行った。パートナー洞口真喜子を中心に河原町マルシェへの月一度の出店、行政の主催するふれあい製品フェアへのコンスタントな参加など販売の機会を増やしていくことで売り上げ増加、知名度の向上、参加するスタッフたちの仕事への意識の変化を見ることができた。販売の機会が増えることでスタッフが販売業務に前向きに当たること、付随する商品の制作・準備も増え、アニマルアーティストによる「お好きな動物つくりますワークショップ」、ミッキーによるカラフルわたあめ販促物としての特大看板の制作など多様な仕事を下支えしている。合同会社サボコマースによるAiオリジナルパッケージのミルクキャンディが新たなラインナップに加わった。協力団体との関わりの中で出会った魅力的な商品を仕入れての販売を開始、サボコマースのオーストラリアマヌカハニーMGO30+、シンディアナのパレスチナオリーブオイルを取り扱い開始。他の福祉事業所とは違う商品のバリエーションがオリジナリティあふれる商品ラインナップにつながった。

ハンカチ、カラフルわたあめはメイン商品として様々な販売会で売上アップの助力となった。カラフルわたあめはコロナ禍後初めての七夕での販売で、それまでに培ったわたあめ制作のオペレーションを遺憾なく発揮し大きな売り上げを立てることができた。

ハンカチについては後述するアートを仕事にするネットワーク環境形成事業で企画した「AとW POPUP SHOP」を仙台パルコ2にて開催するタイミングに合わせて新柄を量産。売上数を大きく更新した。ハンカチの縁を縫う人材が不足しており、生産体制について何度も協議した結果、次年度生産分から縫製職人とのマッチングサービス「nutte(ヌッテ)」を活用することになった。



2023年度開発したハンカチの柄（みちかのレターハンカチは復刻）

(2) アートを仕事にするネットワーク環境形成事業

昨年度に引き続き、多夢多夢舎中山工房、わらしべ舎羽黒台工房と、渡邊デザイン、DIYSTUDIO、TEXTと「アートを仕事にするネットワーク会議」を7月から月一度のペースで実施。仙台を拠点にするアートな福祉施設とクリエイターたちによるネットワーク体「AとW」がワークショップや展示など多様な展開を行ったり、市場に通用する協働出店やポップアップショップを運営したり持続可能なネットワーク体になっていくためにブランディングを実施。学び合いと協議を重ねながらロゴや付随するパターンなどを作成。今後の活動に役立つ基盤をしっかりと作ることができた。また、新たにDIYSTUDIOとの協働によって合板製のオリジナルのディスプレイテーブル2台と雛壇什器4台を開発することに成功し、より魅力的な店舗運営を可能にする財産を手にすることができた。

各事業所はクリエイターとの信頼関係を作ることができており、すでに各クリエイターへ什器注文、商品開発への協力、アートディレクションなど自己資金で仕事を依頼し着々と市場に通用するブランド、商品開発を形にし、持続可能な関係性を築いて行っている。アート・インクルージョンではまだ自己資金を投じてのクリエイターとの協働やブランディングの必要性について賛同を得るまでには至れていない。そのためAとWの活動を継続していくために24年度も文化事業団の助成金を申請している。



ロゴとパターン、PARCO販売会の様子

(3)うめえな～お花見マルシェ

3月に販売会の予定がないことに気づいた洞口パートナーが中心となって新たなマルシェをスタッフと共に企画・運営した。題名や、何を行うか・担当者などスタッフに割り振りをし、スタッフに関わるからこそ支援するパートナーたちも関わらざるを得ない状況を作ることによって、いつものどんどこ市や本祭とは違った「自分ごと」としてアート・プロジェクトにスタッフ・パートナー共に関わることが一番大きな成果だった。他の2企画では企画運営を担当するパートナー以外は何もわからず、連携が取れていないためにスタッフの関わり方も薄くなってしまふことが勿体無い点であったため、うめえな～お花見マルシェでの経験を通じて関わるひとが「自分ごと」にできる企画・運営を目指していきたい。



うめえなあ〜お花見マルシェの様子

(4) その他ソフトコンテンツ事業

① 配信事業

「どんまいネットみやぎ」が主催する「リハビリテーション講習会」がコロナのために2020年度からオンライン開催となっており、毎月のオンライン企画で培ったスキルを用いてアートインクルージョンでその配信業務を請け負っています。本年度はコロナで長らく休止していたリアル開催を再開。仙台医師会館で行い、それを記録、配信しました。

また、2023年4月から始まった「ほっぷの森カレッジ」が主催する「Sunday月いちカレッジ」を記録、編集、一般公開できるものをYouTubeで配信しています。本年度は11回分の撮影と編集を行い、そのうち3本を一般公開しました。

② ホームページ制作・運営事業

「ふうどばんく東北AGAIN」「どんまいネットみやぎ」「にじのさかなプロダクション」からホームページの制作、更新業務を受託、運営を行いました。

③ フライヤー等デザイン事業

「ふうどばんく東北AGAIN」から依頼を受け、「みやぎこども食堂ネットワーク」の冊子や「とみやっこプレーパーク」のフライヤーを制作。

「こどもアドボカシーセンターみやぎ」から依頼を受け、こどもの権利擁護のための冊子を制作中です。

5. パブリシティとファンドレイジング事業「つたえる事業」

(1)広報事業

Aiのホームページにて、参加するマルシェやイベント、オンラインライブなどの告知を行ってきた。その他、Facebook、Instagram、Twitterなどもこまめに更新し、集客を促しました。

2024年5月31日現在のフォロワー状況は以下の通りです（括弧内は2023年同時期）。

●Facebookページのフォロワーは1633人（1609人。24人増）

●Instagramのフォロワーは1263人（1021人。242人増）

●Xのフォロワーは3427人（3441人。14人減）

●YouTubeのチャンネル登録者数は467人（426人。41人増）

YouTubeの2023年6月1日～2024年5月31日までの1年間の視聴回数は1万4118回、総再生時間は651.2時間。

この間の上位コンテンツは

- 1 「仙台三桜高校大震災復興支援チャリティコンサート」 492回
- 2 「かつんって、どんな人？」 486回
- 3 「Aiオンライン企画Vol.40 Madofuwa誕生祭」 386回
- 4 「失語症？チャンネル第一回」 386回
- 5 「失語症？チャンネルPV 柳沢澄男、70歳です。」 381回

このほか、関連するSNSの運営としては以下の通り。

・ Ai GALLERYのFacebookページはフォロワー250人（248人。2人増）

・ アイドルyuka*のFacebookページはフォロワー222人（216人。6人増）、Xはフォロワー2182人（2445人。263人減）、Instagramはフォロワー362人（256人。106人増）。

・ たかピーと高倉悠樹によるInstagram「たかぴい商店」はフォロワー155人（68人。87人増）。

・ アートを仕事にするネットワーク環境形成事業のInstagram「net_make_art」はフォロワー395人（185人。210人増）。

(2)ファンドレイジング事業

① みやぎ赤い羽根募金会チャレンジプロジェクト

141万円を集めることができました。

② 七十七銀行愛の募金会

20万円をご寄付いただきました。



Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー

2023年4月号/vol.49

制作・編集：Aiスタッフ

■社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」 ご支援ありがとうございました

赤い羽根共同募金「みやぎチャレンジプロジェクト」無事終了し¥1,095,000もの
ご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

頂いたご寄付はスタッフの活動のため大切にに使わせていただきます。

■ナイスハートバザールが行われました



1日(水)・2日(木)に仙台駅2階催事コーナーにて開かれた販売会。

宮城県の障がい者福祉事業所34事業所が参加したイベントにAiも出店しました。人通りは多く立ち止まって見てくれた方もいらっしゃいましたが、なかなか手に取って見てくれる方は多くありませんでした。そんな中、人通りの騒音に負けじと声かけ(呼び込み)が出来たのは貴重な経験でした。(市川さん)

■防犯講習会が行われました



仙台市防犯協会連合会の方に来て頂いて、防犯対策講座が開かれました。

1日目はSNSの危険性で詐欺行為から犯罪に巻き込まれないための対処方法を解説いただきました。2日目は護身術の訓練と行き帰りの防犯対策。実際に暴漢に襲われた時の対処法などを学びました。実際に起こったSNSの被害を例に挙げて説明していただいたり、自分の身近で起こりうることの対処法を体験し、自分の身は自分で守るということを改めて感じさせられました。

■「アーティストとアート・インクルージョンの表現者」 2022が開催



3/21～26日まで開催された展示企画が好評のうちに終了しました。

展示の様子は右記の
アドレスから
ご覧いただけます。



■新プログラム「運動の時間」が始まりました



ヴォスコーレ仙台から、中島千博コーチがフットサルのボールを使った足で転がす運動や体幹をのばす運動を教えてもらったり、プログラムの最後には、点取りゲームをしました。

オモテの写真：「Saiko 桜日和」より

さまざまな色で織りなす桜の花びらはまるで、桜吹雪が舞っているような豪快さがあり、Saikoさんの描く桜です。

■ウェルカムパーティーが開催されます

数年ぶりとなるウェルカムパーティーを4月3日(月)13時から仙台市市民活動サポートセンター地下1階シアターにて開催します。コロナ禍で出来なかった期間にAiのスタッフ、パートナーになった方々の紹介などをする予定です。参加お待ちしております。

■河原町マルシェ



日時:4/9(日)

10:00～16:00

場所:河原町商店街通り
ツインタワー前広場

毎月行われていた河原町マルシェ。新年度1回目は「つむぐ春」をテーマにして、和菓子やキッチンカーに雑貨など様々な出店があります。Aiではワークショップのほかグッズの販売もあります。

■プロ野球観戦に行きます



宮城県共同募金会様より4月5日の東北楽天対埼玉西武の試合にご招待いただきました。ありがとうございます。当日が晴れることを祈って今から楽しみです。

■スロウ日和、はじまります



日時:4/22(土)

10:00～17:00

場所:多賀城市文化センター
物販/展示室 体験/創作室

入場料:無料

耳のきこえないつくり手たちを中心に
したフードとクラフトの
スロウなマルシェ
「スロウ日和」が
はじまります。



主催:SEND お問合せ:send.hoga@gmail.com 協賛:麦薫る風処 萌芽
後援:多賀城市、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
(特非)みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会

■Aiオープンスタジオ

4/15(土)・4/23(日)11:00～16:00

■オンライン企画Vol.32

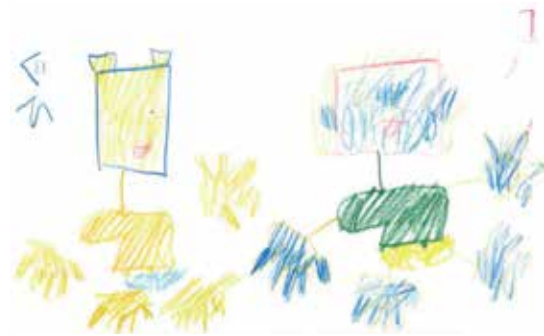
「昭和をテーマに…」

4/29(土)11:00～16:00

たかピーの
解決しない
お悩み相談所
START

Ai News Paper

エーアイニュースペーパー 50号記念企画
2023年5月号/vol.50



稲葉篤志

日向 琢斗

加藤 育央



KASUMI



かつん

白戸 健

オンラインストアとオフィシャルサイトをもっと充実させる!

IA3G...
た...も...
7...
3...
台...
一平

絵をかかんばります。



清水 敬太

King.K

女性画、男性画、風景、やりたい放題、描くのが好き。商品、が読めば様、これから上日も休め返しのしあがら様、がんばりたい。国産は日本の画家!

無...色...
S・IG・M

S・IG・M

出張/11ヤ(7月13日・14日)の...
9月...
③たか...の...相談室(仮)

たかピー

がんばりすぎないように
ゆっくりしたい

トトコ

作業BGMをかけた
ケがたけしないように
おもしろい事

石川法然

これからはもっと
手話でみんなと
話したい

まい

限界を作らず、心が動いたら
やってみる!!の姿勢で自分のペースを
大切にゆっくり進んで行きたいです。

市川 洋一

DAIKI

Ai News Paper

エーアイニュースペーパー 50号記念企画
2023年5月号/vol.50

かうこいいばとなに
よりたいてす。

小野 統也

今度はリアルに大きめ目
全部の生き物を作ってみたい
です。

アニマルアーティスト

やりたことはせいろはんと
おしこ"とてりようしにしたい
きかいかな

松音くん

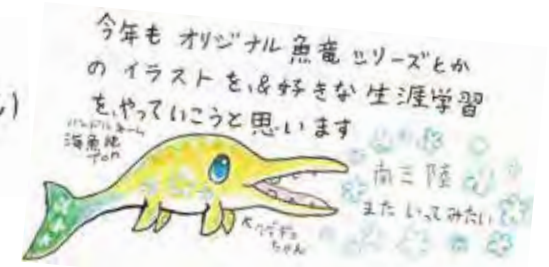
たくさん絵を描いたり歌をたくさん歌って元気でいたい!!
後アニメと声優さんで大好きです!!

毎日 ニュースペーパー 制作、お疲れ様です。
おられる ニュースペーパーを 楽しく拝読
させていただきます。
希望として、文字・大文字・文字の濃淡を
(濃く)して頂ければ助かります。
"これからも 頑張ります。"

michiko



まどか



ひろトン

画業 10周年を向かえる事が出来ました。
これも支えてくれたAiの皆様の
10周年デュー10周年を...お陰です。
なので、1周年がしたい!!

妄想エンジン全開娘

これから
作品を
いっぱい作り
ます。

ミッキー



作曲をやらせてほしい。
そのための舞台もほしい。

由宇



みさこ

しもこく
すく

しゅんすけ



コウセイ

貯金は何かを
買う

第3回目個展を準備中

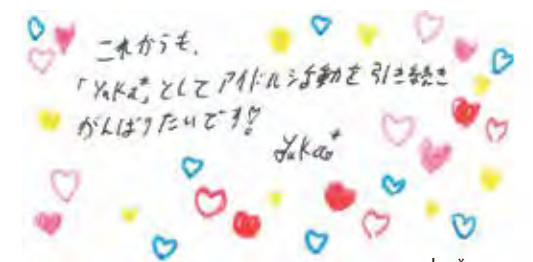
Y・S



みちか

孝えた事もない

諒太



yuka*

Ai News Paper

Event & Program

■ウェルカムパーティー盛大に終了



講師の先生方や関係者の皆さま、スタッフ、パートナー含め約80名の来場があり、おかげさまで楽しいウェルカムパーティーになりました。ありがとうございました。

■スロウ日和に行ってきました



4/22(土)に多賀城市文化センターでスロウ日和が行われ、Aiは出店とワークショップを展開しました。「オレは販売とかわらしべ舎の人とおしゃべりしたりして楽しかったぜ!」(松音くん)

■福の市が開催されます



日時：
5/6(土)・6/18(日)
10:30~14:30
場所：
勾当台公園市民広場

障害者福祉事業所の美味しいパンやクッキー、お豆腐、お花、アクセサリなど、商品がもりだくさん!手作りのあたたかさが広がるマーケットです。Aiのアートグッズの出店もあります。

表紙の写真：ニューズペーパー 50号記念企画
スタッフにこれからの目標ややりたいこと、好きなことなど自由に描いてもらいました。

エーアイニューズペーパー
2023年5月号/vol.50
制作・編集:Aiスタッフ&パートナー
コウセイ、S・i G・M、白戸 健

■河原町マルシェ

日時: 5/14(日)
10:00~16:00
場所: 河原町商店街通り
ツインタワー前広場

■PET LIFE FEST.23が開催されます



Aiではアートグッズと「アニマルアーティスト」作品の実演販売します。

■びすた〜りマンズリーコンサート 「音の風景 弦楽器とピアノの彩」



日時: 5/28(日)
開場 13:30 開演 14:00
場 所: びすた〜り榴ヶ岡
料 金: 3500円(ケーキセット付)
初夏の午後、爽やかな風と奏でる音色で、彩られる時間はいかがですか?

QRコード
虹のさかなプロダクション
HPはこちら



◀現在、「びすた〜り榴ヶ岡」では小野統也の作品が展示中です。ぜひ一度お立ち寄りください。

■オンライン企画Vol.33
5/20(土) 11:00~16:00

■Aiオープンスタジオ
5/5(土)・5/28(日) 11:00~16:00

■GWのお知らせ
5/3(水)~5/7(日)までお休みとなります。

長崎・瑞宝太鼓 ありがとうコンサート

2023年 6月1日(木)
17:30 開場、18:30 開演
楽楽楽ホール
仙台市太白文化センター
仙台市太白区長町5丁目3番2号 電話 022-304-2211

チケット: 一般 2,500円
介助者、学生 1,000円
障がいのある方、高校生以下 無料

【主催・問合せ】一般社団法人アート・インクルージョン TEL 022-797-3672 FAX 022-797-3673 メール office@art-in.org
【共催】特定非営利活動法人ワンファミリー仙台、一般社団法人パーソナルサポートセンター 【助成】公益財団法人仙台市市民文化事業団

1987年知的障がい者の余暇サークルとして発足。楽しみながら練習と演奏活動を続けてきたが、「プロになりたい」とたくさんのクラブ員から希望の声上がり、その夢を叶えるため2001年に「瑞宝太鼓」を結成。日本全国、時には世界を舞台に年100回以上の公演や講習活動を行っている演奏集団「瑞宝太鼓」のコンサートが開催されます。宮城での公演は今回が最後になるかもしれませんが。迫力ある演奏をぜひご覧ください。

瑞宝太鼓のHPはこちら▶

Ai News Paper

エーアイニュースペーパー
2023年6月号/vol.51



Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー
2023年6月号/vol.51
制作・編集: Aiスタッフ&パートナー
コウセイ、S・i G・M

■瑞宝太鼓のみなさん、ありがとうございました。



日々の鍛錬から漲るエネルギーと情熱溢れる「ありのままの自分達を見てくれ!」「自分達の生き様を見てくれ!」という魂の叫びが伝わる最高のステージでした。ありがとうございました。

■とっておきの音楽祭に出演しました

Aiのスタッフが出演したステージを紹介します。



▲Aiファクトリー



▲サンフィッシュ



▲yuka*



▲笙YUU&諒



▲市川洋一

■どんどこ市開催します

日時: **6/10(土)**
11:00~17:00

場所: ぶらんど〜む一番町



インクルーシブなアート市

マルシェ

スタンプラリー

オープンステージ

帝国軍やパレードも
やってくるらしい!?

ワークショップ

ぶらんど〜む一番町がいちばん **アツい!**

オモテの写真:「加藤育央」作品より

大きな紙のすみっこに可愛い絵や、こまかい文字をびっしり描いたり、いつもニコニコしながらひかえめな育央さんはダンスではキレイレのパフォーマンスをする一面もある。現在「びすた〜り榴ヶ岡」にて加藤育央作品が同時展示中です。

■河原町マルシェに出店します



日時:

6/11(日)
10:00~16:00

場所:

河原町商店街通り
ツインタワー前広場

今回は「カラフルスイーツ市」をテーマに美味しいスイーツが大集合、Aiではワークショップのほかグッズの販売もあります。



■福の市が開催されます



日時:

6/18(日)
10:30~14:30

場所:

勾当台公園市民広場

いろんなお菓子や雑貨がもりだくさん!手作りのあたたかさが広がるマーケットです。Aiのアートグッズを販売します。ぜひお立ち寄りください。

■新プログラム紹介



◆織物の時間/矢吹重光先生

毛糸を使ってアート!
編み物が苦手な方でも講師の先生が手取り足取り教えてもらえるので、安心して楽しめる時間です。



◆絵本のとびら/村松由里子先生

図書室の先生による絵本を通じて本の楽しさや学びを深める読み聞かせの時間。大人にこそ読んでほしい、聞いてほしい絵本がそこにある。

6/24(土) 11:00~16:00

■Aiオープンスタジオ&
■オンライン企画Vol.34
「加藤育央」展

たかピーの
解決しない
お悩み相談所
あるかも?

Ai News Paper

エーアイニューズペーパー

2023年7月号/vol.52



白戸 健



KASUMI



Saiko



コウセイ

Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー

2023年7月号/vol.52

制作・編集: Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M、白戸健

■どんどこ市開催しました



たくさんのご来場、イベントに参加いただき、ありがとうございました。

■尚絅学院大学「SDGsマルシェ 2023」



尚絅学院大学が「身近な課題を見つけてみよう!」をテーマに開催した「SDGs マルシェ2023」。Aiでは藤崎さまとコラボしてアート作品などの販売で出店させていただきました。

■課外活動で仙台市科学館に行ってきました。



課外活動の時間に仙台市科学館に行っていました。

■「ヴォスクオーレ仙台」の試合会場で出店します。



7/2 (日) 12:00~14:30 (試合開始は14:00)

場所: 青葉体育館

ヴォスクオーレ仙台の試合を応援に行きます。当日はAiの出店ブースもあるのでぜひいらしてください。

■ベガルタ仙台の観戦に行きます。



日時: 7/5 (水)

16:30~20:10頃まで
(試合開始は19:00)

場所:

ユアテックススタジアム仙台

ベガルタ仙台の試合前から後半開始頃まで、ユアテックススタジアム仙台の入口ゲート付近でAiグッズの販売をいたします。

オモテの写真: 夏いろの風景

上 → 左: 白戸健「晴るる海辺」 右: KASUMI「無題」

下 → 左: Saiko「帆船」 右: コウセイ「夏キャンプ」

■河原町マルシェに出店します



日時:

7/9(日)

10:00~16:00

場所:

河原町商店街通り
ツインタワー前広場

今回は「クラフト市」をテーマに手づくりの商品を中心にマルシェが開催されます。Aiではワークショップのほかグッズの販売もあります。

■暮らしの市に参加します

日時:

7/22(土)・23(日)

10:00~15:00

場所:

塩竈市杉村惇美術館

「暮らしの市」とは「知恵と工夫で暮らしを彩る」ことをテーマにしたマルシェイベントです。器や木工品等の手づくりの品から古道具、地元商店による食、アップサイクル、ものづくりのワークショップなど、日々の暮らしを提案した雑貨やグッズが立ち並びます。

7/22(土) 11:00~16:00

■オンライン企画Vol.35

「インドネシアとむすんで」

7/29(土) 11:00~16:00

■Aiオープンスタジオ

■仙台七夕に出店します。

仙台といえば「七夕祭り」。期間中に七十七銀行一番町支店入口前にてAiアートグッズやわたあめなどの販売をいたします。ぜひ七夕見物の際は是非お立ち寄りください。

日時:

8/6(日)~8/8(月)

時間未定

場所:

七十七銀行一番町支店前



Ai News Paper

Event & Program

■ヴォスクオーレ仙台の試合観戦&出店しました。



いつも、スポーツの時間でお世話になっているヴォスクオーレ仙台からホームゲームにご招待頂きました。はじめてフットサルの試合を見たスタッフも多く、一生懸命応援し、特に後半の逆転劇にはとても興奮しました。

■ベガルタ仙台の試合観戦&出店しました！



ホームゲームで試合開始前からベガルタのサポーターでとても賑わうゲート入口付近で販売をしました。その後、Aiのスタッフみんなで試合を楽しく観戦しました。ベガルタ仙台さんご招待ありがとうございました。

■スイーツアートのプログラムがありました。



2回に分けて実施したスイーツアートの時間。美味しそうで、思わず口にいたくなるほど、カラフルなドーナツやワッフルなどを作りました。

■地底の森ミュージアムに行ってきました。



課外活動の時間に地底の森ミュージアムに行ってきました。入口に入って間もなく暗くて広い空間で約2万年前のたき火や森のあとの遺跡展示があり、そこでは映像で旧石器時代の人々がどんな生活をしていたか見ました。順路に沿って見学して行くと、旧石器人と遭遇してコミュニケーションもとれました。

オモテの写真：仙台七夕のイラスト

竹・短冊/ミッキー 織姫・彦星・背景星/yuka*
仙台七夕・政宗/Saiko

エーアイニュースペーパー

2023年8月号/vol.53

制作・編集：Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M、白戸健

■「成田夏祭り」に出店します。

8/5(土) 15:30~20:30

場所：成田東公園 主催：成田連合町内会 夏祭り実行委員会

Aiでは15:00~わたあめなどの販売をします。



■仙台七夕に出店します！



日時

8/6(日)~8/8(火)

11:00~17:00頃

場所

七十七銀行一番町支店前

4年ぶりに仙台七夕に出店します。カラフルわたあめを三越向かい七十七銀行一番町支店前で販売します。七夕を見に来る際はぜひ寄ってみてください。

■河原町マルシェ「夏祭り」



日時：

8/6(日)

10:00~21:00

場所：

河原町商店街通り
ツインタワー前広場

今回は「夏祭り」をテーマに手づくりの商品を中心にマルシェが開催されます。Aiではワークショップのほかグッズの販売(15:00まで)をします。

■Aiオープンスタジオ

8/13(日)・27(日)

11:00
~16:00

■オンライン企画Vol.36 & Aiオープンスタジオ

8/26(土) 11:00~16:00

たかぴーの
解決しない
お悩み相談所
あるかも？

■お盆休みについて

8/11(金)~16(水)の期間お休みです。



「妄想エンジン全開展」

日時：2023 9/6 wed ~ 23 sat

10:00~16:00

※9日・23日を除く土日祝は休廊

場所：Ai GALLERY

Ai News Paper

Event & Program

POP UP STORE

AとW

9.1(FRI)-9.5(Tue) 10:00-20:00

仙台PARCO 2階



仙台発の福祉事業所とクリエイター、Fab 工房によるコラボレーションから生まれたアイテムを中心にしたポップアップショップを開催します。

お問合せ：一般社団法人アート・インクルージョン

助成：公益財団法人仙台市市民文化事業団

■エフブンノイチ+に出店します



9/1(金)~15(金)
10:00~20:00

宮城県内の福祉事業所16団体がTAPIOにオープンします。アート・インクルージョンも出店します。



■みんなのマルシェ in ブランチ仙台

日時：9/3(日) 11:00~15:00

場所：ブランチ仙台 (WEST)

「たべる」と「あそぶ」が未来をつくる!?フードバンクとプレーパークを知らう!をテーマに子ども食堂やマルシェ、ワークショップが開かれます。Aiも販売とワークショップで参加します。皆さんのお越しをお待ちしています。

■みやぎアピール大行動に出店します



日時：9/3(日) 13:00~
せんだいメディアテーク
オープンスクエア

障害者自立支援法「応益負担反対」を訴え、より良い障害者福祉を求め、せんだいメディアテークでの講演、そして仙都会館に向けて大行進をします。

当日、Aiはメディアテーク内で出店販売を行います。

■「Aiファクトリー@一番町」が始まります



日時：9/6(水)・20(水)

場所：サンモール一番町商店街

一番町のアーケード内でAiのみんなが日頃どう過ごし、どんな活動をしているのか触れることができる機会です。

エーアイニュースペーパー

2023年9月号/vol.54

制作・編集：Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M、白戸健

■ベガルタ仙台のオリジナルTシャツ頂きました



吸収速乾のドライシャツで普段着としてはもちろん、試合観戦にはこのTシャツを着てベガルタを応援に行きましょう。

■河原町マルシェ「秋のスイーツ市」

日時：9/10(日)
10:00~16:00
場所：河原町商店街通り
ツインタワー前広場

歴史ある街「かわらまち」に、美味しい秋のスイーツが大集合!有名店やTVで話題のお菓子も登場します。その他、クラフト系雑貨・野菜や花ワークショップ・リラクゼーション・さらに、美味しいグルメキッチンカーも大集合!



■フラットシアターフェスティバル



日時：9/16(土)・17(日)
10:00~16:00

場所：宮城野区文化センター
宮城野区中央市民センター

障害や年齢の違いを問わず、あらゆる子どもを対象とし、様々な表現を楽しめる2日間です。Aiは音階やルールを超えて、音を探し、なんでもありなNO is...?な音楽隊として参加し、出店販売もします。

■DATE NA SENDAI COLLECTION 2023



日時：9/23(土)・24(日)
場所：定禅寺通 グリーンベルト
今回で3回目となる『LGBTQ』をテーマにしたファッションショー。差別がなくなり、だれもが自分らしくアイデンティティをもって生きられる世界になればいいという願いを込めて開催されます。Aiスタッフもモデルとして参加し、出店販売もします。

■オープンスタジオ

9/9(土)・23(土) 11:00~16:00

■オンライン企画Vol.37

9/23(土) 11:00~16:00

Ai

Art・インクルージョン 2023

Ai Month
10月1日(日)~10月31日(火)
仙台市太白区長町一帯

Ai 本祭
10月14日(土)
11:00~16:00
長町駅前広場

アートでインクルージョン

せんくらのつらぎ企画も!

永町橋

Kaigyoha.Ton

永町橋

Ai News Paper

Event & Program

■AiMonth

「アート・インクルージョン2023」

日時:

10/1(日)~31(火)

会場:仙台市太白区長町一帯



「ハトヤ物語」

2024年12月に閉店する長町の名物駄菓子屋店ハトヤをテーマに、3人の表現者がそれぞれの「ハトヤ物語」を制作します。

出展:
たかピー、高倉悠樹、門脇篤

「むかしここには競馬場があった」

かつて長町にあった「仙台競馬場」(通称「長町競馬」)をテーマにした馬のイラストをじゃじゃ麺の店「食堂び〜わん」に展示します。

出展:
小野統也

「マイ・ライフ」

就労移行センターはっぴに通う皆さんが想いのままに描いたものやお互いの人生を詩にした物に絵をつけた作品などを「びすた〜リフドマーケット」と「Cafe Jho Jho」に展示します

「人気キャラ大集合!」

旧笹谷街道沿いにある「ファッションウェアたむら」前のまちの掲示板に、小学生にも人気のキャラクターがじょじょに増えていきます。

出展:Madofuwa

「せんくらとのコラボ展示」

長町競馬場を再現したインスタレーションや1/5スケールの駄菓子屋ハトヤ、サイレント映像による「長町電車スポット」など、楽楽ホールホワイエに展示します。

出展:Aiスタッフなど

「長町電車スポット」

文具ステージ赤井沢にて、長町で電車が見える・聞こえる・感じられるスポットを写真で紹介。会期中はAiのアートグッズの販売ブースがあります。YouTubeでの配信もあります。

出展:松音くん×由宇

「スイーツ日和」

長町の洋菓子専門店「セレクト」&コラボしたケーキやmichikoオリジナルパフェの立体作品などを展示。

出展:michiko

「Nagamachi まいそーと」

長町をテーマにした写真や絵とまいの文章を組み合わせた投稿を10月の31日間、毎日Instagramで投稿していきます。

出展:まい

「ながまちものがたり」

長町界隈で生まれ育ったSaikoと母・有子に聞き取りした話をもとに長町をテーマにした曲を制作。ミュージックビデオをYouTubeで公開致します。

出展:Saiko

フリーペーパー「みずもうたうよ」

長町界隈の水流の聴こえる場所をテーマに執筆陣それぞれの表現を散りばめたフリーペーパーを長町各所で配布(太白区文化センター、ハトヤ、食堂び〜わん、赤井沢など) <執筆陣>高倉悠樹、King K、白戸健、コウセイなど



「今日もナガマチからお送りします」

仙台的ローカルアイドルとして活動しているyuka*が長町のおすすめスポットを紹介。イラスト:海魚爬ton

皆さんのお越しをお待ちしています。

■FUJISAKI DAY開催されます

日時:

10/7(土)・8(日)

11:00~16:00

会場:

八木山動物公園フジサキの杜(仙台市八木山動物公園)



▲昨年の様子から

Aiでは八木山動物公園にて「アートグッズ」や「オリジナルポーチを作ろう」などの販売を行います。

エーアイニュースペーパー

2023年10月号/vol.55

制作・編集:Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M、白戸健

■Ai本祭2023開催します

日時:

10/14(土) 11:00~16:00

会場:長町駅前広場

「アート・インクルージョン2023」のクライマックスとなるステージやマルシェ、ワークショップなどからなる1日。

Aiの表現者たちによるソロステージのほか、長町に伝わる伝説をテーマにしたオリジナルミュージカル「橋姫ものがたり2023」の上演します。



▲2019年「橋姫ミュージカル」初演より

ステージ

せんくら
×
Ai

ワーク
ショップ

マルシェ

フード
ドライブ

お楽しみ
盛りだくさん!!

■オンライン企画Vol.38



10/14(土)

11:00~16:00

長町駅前ひろばからの生中継をぜひお楽しみください。

■オープンスタジオ

9/30(土)・10/22(日) 11:00~16:00

■お休みのお知らせ

10/16(月)は本祭の代休になります



Pick up Artist
Madofuwa
絵を描くことやダンスが好きな新メンバーMadofuwaの世界をご紹介します。

Aiファクトリー@一番町

2023 11.1 wed



Ai News Paper

Event & Program

■Ai Month

「アート・インクルージョン2023」が開催されました。

長町駅前広場で開催された「Ai本祭」では長町に伝わる伝説をテーマにしたオリジナルミュージカル「橋姫ものがたり」やソロパフォーマンスのほか、ワークショップやマルシェなど楽しいこといっぱいの日でした。



オモテの写真：Madofuwa 作品

絵を描くことやダンスが好きなMadofuwaさんを
フィーチャーして今年度最後の「@一番町」です。

エーアイニュースペーパー

2023年11月号/vol.56

制作・編集：Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M、白戸健

■ナイスハートバザール in せんだい

日時：

11/2(木)

10:00～19:00

場所：

JR仙台駅2階

中央改札口コンコース

手作りのパンや
焼き菓子、ス
ウィーツ、などな

どおいしい食べ物がいっぱい。その
他にも手作りの木工品、アクセサ
リーや小物雑貨といった「とってお
きの商品」が販売されます。



暮らしの市 塩竈市杉村惇美術館

日時：

11/11(土)・12(日) 10:00～15:00

「暮らしの市」とは「知恵と工夫で暮らしを彩る」ことをテーマにしたマルシェイベントです。器や木工品等の手づくりの品から古道具、地元商店による食、アップサイクル、ものづくりのワークショップなど、日々の暮らしを提案した雑貨やグッズが立ち並びます。同時に2日間に渡って塩竈市内で複数のイベントが開催されます。お出かけがてらどうぞお立ち寄り下さい。

■河原町マルシェ「あったか市」

日時：

11/12(日)

10:00～16:00

場所：

河原町商店街通り
ツインタワー前広場



月1回開催されている河原町マル
シェ。今回のテーマは「あったか
市」です。Aiではワークショップの
ほか、グッズの販売があります。

■オンライン企画Vol.39



11/3(金)

11:00～16:00

海魚爬トンをメイン
にライブ&トークを
お送りします。

■オープンスタジオ

11/3(金)・11/26(日) 11:00～16:00

らららぶんかさい 文化祭 2023

楽しいこと いっぱいの一日

参加無料
誰でも気軽に参加できます。直接会場へ!

『冬のひだまりコンサート』
楽楽楽ホール 14:00~15:30

『楽楽楽マルシェ!』
オワイエ 10:00~15:30

『楽楽楽多文化映像祭』
前夜祭開催 10:10~14:50

アートワークショップ
『AI ファクトリー@楽楽楽文化祭 楽楽楽ツリーをつくろう!』
楽楽楽ホール 10:00~15:00

令和5年
12月17日 日
10時スタート

太白区文化センター
仙台市太白区長町5-3-2
地下鉄南北線長町駅 南1番出口直結、JR長町駅徒歩3分
※専用駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

【主催】公益財団法人仙台ひとまち交流財団 仙台市太白区文化センター
【共催】一般社団法人アート・インクルージョン 特定非営利活動法人ほっぼの森

【問い合わせ先】仙台市太白区文化センター
022-304-2211

KASUMI

Ai News Paper

Event & Program

楽楽楽文化祭2023

『冬のひだまりコンサート』
楽楽楽ホール(2F)/14:00~15:30
パフォーマンスあり、ダンスあり、歌あり赤ちゃんからご年配の方までお楽しみ頂けるプログラムです。
【出演】アート・インクルージョン・ファクトリー、幹miki(シンガーソングライター)、
過心杏(ギター・ボーカル)、小野越郎(津軽三味線)、三浦公規(和太鼓・鳴り物縁者)、
三浦加菜子(Saxophone)、及川久美子(Piano)
【企画】特定非営利活動法人ほっぷの森

『楽楽楽マルシェ』

ホワイトエ(2F)/10:00~15:30

福祉事業所のオリジナル雑貨やお菓子など盛りだくさんなマルシェが展開します。ふーどばんく東北AGAINによるフードドライブやゆっくり休める休憩スペースもあります。

『Aiファクトリー@楽楽楽文化祭 楽楽楽ツリーをつくろう!』

展示ホール(地下1F)/10:00~15:00

「Aiファクトリー」は仙台市一番町にあるアート・スペース。障がいのあるアーティストたちが毎日、制作活動を行っています。それを楽楽楽文化祭内で開き、来場者はいっしょに制作に参加できます。大きなクリスマスツリー『楽楽楽ツリー』を作るワークショップもあります。

『楽楽楽多文化映画祭』

音楽練習室1(地下2F)/10:00~15:30

多様性や人と人とのつながり交流の実現をテーマに制作された世界各国の映像作品を上映します。
お楽しみください!

■代休のお知らせです

12/18(月)は楽楽楽文化祭の代休になります。

エーアイニュースペーパー

2023年12月号/vol.57

制作・編集: Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M

■河原町マルシェ 「サンタ商店街」



日時:

12/12(日) 10:00~16:00

場所:

河原町商店街通り
ツインタワー前広場



日時:

12/9(土) 10:30~14:30

場所:

仙台市新田東総合運動場
宮城野体育館



■Sunday

月いちカレッジ開催中

毎月1回、日曜日の午前10時~12時の開催です。講師の専門的なお話に加え、毎回渡辺祥子さんとのトークの時間もあり、参加の皆さんとのやり取りが魅力です。パリエティに富んだ講師陣それぞれの立場からの新たな視点を提供。これまでとらわれていたことから心が自由になるかもしれません。新たな価値観を提供する楽しい学びと体験の場にぜひお越しください。どなたでもお気軽に参加いただけます!!



■赤い羽根共同募金

「みやぎチャレンジプロジェクト」

街をとび出してもっと大胆に創りたい! 汚れるのを気にせずに大きなキャンバスに向かって、絵筆やペンを走らせたり、自身の表現と向き合える環境作り資金を使わせていただきます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



■Aiカレンダー2024注文受付中です



今年もこの季節がやってきました!!

「Aiオリジナル卓上カレンダー」を販売します。

1冊1,100円で受注生産です。

※受注生産につき、お渡しには1週間ほどお時間を頂きます。ご購入の際はAiパートナーまで。

※12月15日以降のご注文はお渡しは来年になる場合がございます。

■オープンスタジオ

12/24(日)・31(日) 11:00~16:00

■年末年始のお休みについて

12/29(金)~1/4(木)までお休みです。



「月と海」：mado fuwa

Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー

2024年1月号/vol.58

制作・編集: Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M

■ 楽楽文化祭が開催されました



ワークショップやマルシェ、そしてステージと、ご来場いただきありがとうございました。皆さんと一緒に「楽しいこといっぱいの日」となりました。

■ 楽楽文化祭エクストラプログラム 「Aiファクトリー1日体験」

楽楽文化祭アートワークショップを企画運営しているアート・インクルージョン。アート・インクルージョンファクトリーでは、楽楽文化祭でワークショップを行ったアーティストさんが日々思いの日常を過ごしています。ゆる〜くまったりとした時間が流れるそのAiファクトリーで、所属アーティストさんたちと一緒に1日を過ごしてみませんか。



オモテの写真: Mado fuwa の作品

いつもアニメのキャラやかわいいイラストを描いてるmado fuwaさんが、新しい作風にも取り組んでいます。1月のオンライン企画が楽しみです。

■ スタッフと一つの企画やコラボ作品をつくりたい

Aiではお互いにフラットな関係を築けるよう、親しみを込めて職員をパートナー、利用者をスタッフと呼んでいます。今回は、亀岡萌乃さんにお話を伺いました。

Q. Aiではどんなお仕事をされていますか？

A. 週4日パートナーとして、スタッフの活動をサポートしています。

スタッフのみなさんが「やりたい」と思ったことを表現できるような環境や雰囲気づくりを心掛け、お仕事をしています。

Q. Aiに来る前はどのようなお仕事をされていたか？

A. アルバイトでマクドナルドで働いていました。また、学生の頃は保育の勉強をしていました。

Q. Aiに来てからの感想などお聞かせ下さい。

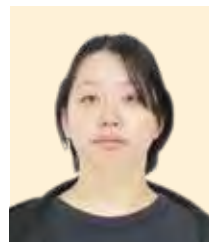
A. 今までボランティアとして何度かAiの皆さんと関わることはありましたが、1日通して活動の様子を知ることは無かったので驚くことがたくさんありました。スタッフの皆さんと話したり、作品に触れて、より深く知りたいと思いました。ボランティアで関わったスタッフが憶えてくれていたのも嬉しかったです。

Q. 今後Aiでやってみたい事などありますか？

A. スタッフと一つの企画や作品をつくりたいです。皆さんの理想を形にできるように日々の活動を通してスタッフの興味や好みをキャッチできたら良いなと思います。年齢が近いスタッフが多いので、これからも話しやすさを心掛けて、一緒に成長していけたら良いなと思います。

Q. 休日はどう過ごしていますか？

A. 絵を描くことが好きなので家で絵を描いたり、カラオケで歌ったりして過ごしています。一人カラオケで全力で歌うのが気持ち良いです。ありがとうございました... 今後ともよろしくお願いします。



パートナー
亀岡 萌乃さん

■ クリスマス会開催しました



Aiでクリスマス会を開催しました。

白木さんや講師の皆さん、親御さんをお招きして、スタッフのパフォーマンス披露やクイズ大会、ボーリング大会に、美味しいケーキもいただき、笑顔溢れるクリスマス会になりました。

■ 赤い羽根共同募金

「みやぎチャレンジプロジェクト」

街をとび出してもっと大胆に創りたい！汚れるのを気にせずに大きなキャンバスに向かって、絵筆やペンを走らせたり、自身の表現と向き合える環境作りに資金を使わせていただきます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



■ オープンスタジオ

1/8(月)・20(土) 11:00~16:00

■ オンライン企画Vol.40

1/20(土) 11:00~16:00





アニマル
アーティスト

月日
歩進

S・iG・M

永朋健

かつん

mado fuwa



清水 敬太

みず
す
わ
は
し
う

たかビー

EIKI



DAIKI



KASUMI

同反なこはやんぱん

加藤 育央



小野 統也



海魚爬トン

魚竜

ソに行きま
社で元朝参
舞合八幡神

Saiko



妄想エンジン全開娘

か
あ
し
い
が
は
し
い
が
は
し
い
が

一平

みちか

ゴ
縁

michiko

明るい
年

ミッキー

自泰然
若然

コウセイ

作曲

由宇

2024
貞

Y・S

向上心

yuka*

前世

諒太

Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー

2024年2月号/vol.59

制作・編集: Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M

■ ほっぷの森フェスティバル開催されます



日時:

2/17(土)~18(日)

10:00~15:00

場所:

ほっぷの森カレッジ

展示と上映:

2/17 10:00~15:00

2/18 13:30~15:00

誰でも気軽に参加できます!

直接会場へ!

**参加費
無料**

● 展示企画

「ほっぷの森って、どんなところ?」をテーマにほっぷの森カレッジに集う人々と卒業生、連携団体による絵画や立体、文章などを展示します。

● 映像上映

「表現のプログラム」で制作した映像を上映します。「ほっぷの昼休み」「ほっぷのプログラム」など、日常を垣間見る事ができます。

● トーク 10:00~12:00

2/18「Sunday 月いちカレッジ」

出演:市川洋一(アート・インクルージョン) ナビゲート:渡辺祥子(ほっぷの森カレッジ学長) ほっぷの森カレッジ開校とともに始まった、一般参加大歓迎の学びと交流の場。この日は「ゆっくりの力」と題し、ステージなどに取り組む市川洋一さんがゲストです。

● 公開プログラム 13:30~

「つむつむたおし」「Bトレ」「段ボールバスケット」「ほっぷかるた」など、ほっぷの森カレッジの人気プログラムを公開実施します。日頃の活動をぜひ体験ください。

● ステージ 14:30~

ほっぷの森カレッジに集う有志による演奏などを披露します。飛び入り参加も大歓迎です。

作品展示会場 2/1~29

ほっぷの森の4事業所とアート・インクルージョンでほっぷの森カレッジの作品展示を行います。※営業時間や休業日などは、各施設にお問合せください。

◆ cafe jho jho

仙台市太白区長町3-7-26
長町病院1F
☎022-796-1061



◆ びすた〜り 榴岡

仙台市宮城野区榴岡5番地
みやぎNPOプラザ1階
☎022-299-2888



◆ びすた〜り フードマーケット

仙台市太白区長町1-2-8
☎022-738-7231



◆ TFU Cafeteria Olive

仙台市宮城野区榴岡2-5-26
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス1F
☎022-762-7827



◆ アート・インクルージョン

仙台市青葉区一番町3丁目8番14号 スズキアパティビル3F
☎022-797-3672



お問
合せ

特定非営利活動法人 ほっぷの森

仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階 ☎022-797-8801



オモテの写真: 書き初め

新年初めのプログラムはみんなで書き初めをしました。

■ AとWの販売に向けてワークショップを行いました



AとWの商品作りで各々好きな色を選んでシルクスクリーンプリントを体験しました。

■ きらりの集いが行われました



全国の障害を持っている人が中心となって障害がある人もない人も一緒に歌ったり、ゲームをしたり、交流を深め楽しい集まりとなりました。

■ 若林消防署河原町出張所の見学に行きました



活動スペースや事務室など、すぐ出動出来るように車両や道具、防火衣などが整っていて緊急時に対応できる行動。日頃の訓練から連携を深めていることがわかりました。

■ 赤い羽根共同募金

「みやぎチャレンジプロジェクト」

街をとび出してもっと大胆に創りたい! 汚れるのを気にせずに大きなキャンバスに向かって、絵筆やペンを走らせたり、自身の表現と向き合える環境作りに資金を使わせていただきます。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



■ オープンスタジオ

■ オンライン企画

Vol.41

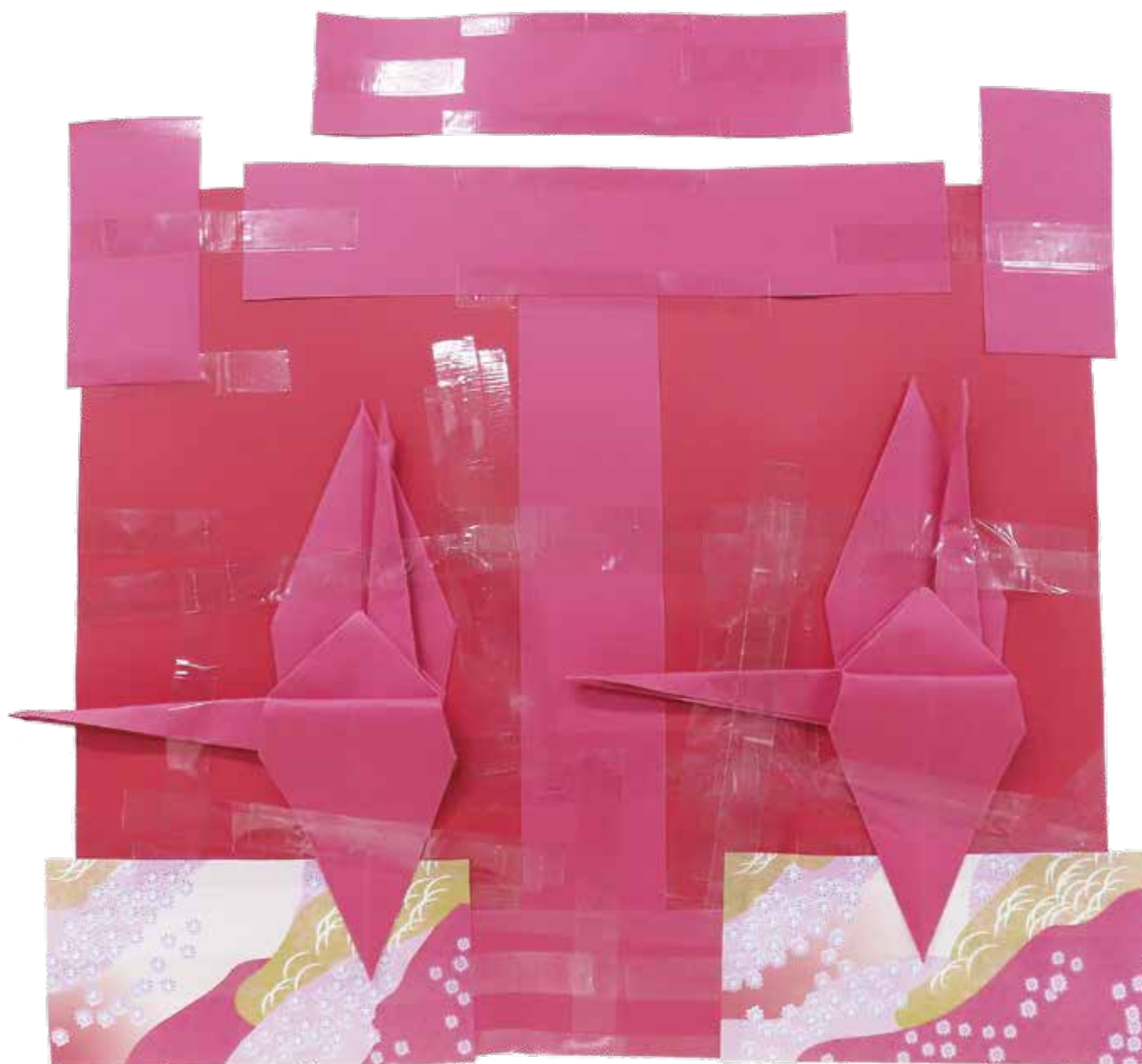
2/24(日) 11:00~16:00

**同時
開催**



Ai News Paper

エーアイニュースペーパー
2024年3月号/vol.60



▲Y・S
「コウノトリからの便り」

Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー

2024年3月号/vol.60

制作・編集: Aiスタッフ&パートナー

コウセイ、S・i G・M

■うめえなあ〜『お花見マルシェ』開催します



日時:
3/16(土)
11:00~15:00

場所:
ぶらんど〜む一番町
アーケード内

春といえばお花見ですね。出会いもあり、別れの季節でもある春。ドキドキ、わくわくのおいしいものたのしいこといっぱいのマルシェに遊びに来ませんか...

マルシェ

福祉事業所とクラフト作家の焼き菓子や雑貨などの販売

ワークショップ

みんなで桜の木を満開にしよう!
めんこなど、昔の遊び体験

パフォーマンス

銀河の果てから第501軍団がやってくる!!?
キッズチアのフラッシュモブ

出店者一覧

●さをり織り雑貨
工房すぴか

●クッキー・アクセサリ他
Keyaki no mori

●ガラスアクセサリ・雑貨
眞苔硝子

●クッキー・他
コッペ&ワークスペースぽぽ

●ハンバーガー
マイロ

●マープルアート雑貨・他
ポタニカルラウンジ

●パン・焼き菓子・おはぎ・雑貨
みつばちニコニコ工房

●レジンキーホルダー・他
Angle-M

●手芸品・焼き菓子
ピアサポートセンターそら

●パン・焼き菓子他
あいの郷

●大漁旗アップサイクル
FUNADE

●アート雑貨
WONDER ART

●野菜・アクセサリ
芽ぶき

●しゅうまい他
もぐもぐ

●つまみ細工・小物
ぶるーびー

●お菓子・小物
はびかむ

●さをり織り雑貨
Toki☆Maki

オモテの写真:「コウノトリからの便り」

おもに、色鉛筆で淡い色合いのタッチで描いていたY・Sさんが、近頃は折り紙作りに凝っていて、出来上がった折り紙を使って立体的に作品を作ることが主流になっている。

■ほっぷの森のフェスティバルプレが開催されました



二日間に渡り、トークやステージなどほっぷの森フェスティバルプレが開催されました。Aiのギャラリーでは一ヶ月間、ほっぷの森の4事業所とほっぷの森カレッジとアートインクルージョンが合同で作品展示しました。



■のぞみマーケットに「AとW」が出店しました



東日本大震災をきっかけに立ち上がった紙漉きとアートのブランド「Nozomi paper factory」が南三陸町にある作業所を一般開放する「OPEN!Factory」を開催しました。Aiはマルシェに参加させていただきました。



■「七十七愛の募金会」様よりご寄付いただきました



長年、社会貢献活動をしている「七十七愛の募金会」より贈呈式が行われました。有効に活用させていただきます、ありがとうございます。

■スロウ日和、がはじまります

日時:
3/24(日) 10:00~16:00
場所: 多賀城市文化センター



耳のきこえないつくり手たちを中心にしたフードとクラフトのスロウなマルシェが開催されます。「スロウ日和」に出店するのは、半数が耳がきこえないつくり手たちです。でも、耳がきこえないって、どういふことなんだろう? 手話や筆談をつかったお買い物やコミュニケーションを体験してみよう!



■オープンスタジオ

3/3(日)・23(土)・31(日) 11:00~16:00

■オンライン企画Vol.42

3/23(土) 11:00~16:00



せこ三平の

現代ヒトバシラ考

前編

埋まろかなり埋まるのよそうかな
♪

広瀬橋周辺には餓死者も沢山埋まってるらしいけど、橋姫はみんなのために、自ら進んで埋まっちゃったという人です。通りがかりの巡礼の女性を拉致して埋めたという説もあるけど…伝説なんで真偽は不明。しかし、事実として昔は世界中に「人柱」「人身御供」みたいな制度があった。いったいこれはどういうことだべ？おっかねぐねすか？つーわけで、おら、つらつら考えてみたんですが。

人は耐えられないことが起きた時「他人のせい」「何かのせい」にして心を慰める、という防衛機能が働くらしく、ま、平たく言えば「八つ

みずもうたうよ

第1号

広瀬橋編(前)

二〇二三年九月二七日発行

一般社団法人アート・インクルージョン

みずもうたうよ

長町にながれる水流を聴く
水辺散策 × アートのフリーペーパー



長町一丁目のミニストップでひとやすみする。なんて良い天気なんだろう。キングさんは買ったばかりのペットボトルのコーヒーをもの数秒で飲み干してしまった。『道中往来』という一八二六年発刊の古文書の絵図には、仙台城南南の出入口であった長町宿場とともに長町橋(現広瀬橋)も見える。河原町側には対橋楼、観水楼、赤壁楼、香菊楼、お百茶屋と五つの茶屋があり、下河原五軒茶屋と呼ばれて栄えた。参勤交代の際は藩主や重臣が赤壁楼で朝食を摂るのが習わしだったという。明治時代以降は河原町と長町北町にそれぞれ青果市場が出来て、この辺りはいまとは比較にならないほど賑わった。

散歩をはじめのまに、一応そんなことをひととおり説明するが、案の定興味がなさそう。広瀬橋までたどりつくと、キングさんは「あの石が描きたくて仕方ない」と言って鉛筆を取り出す。彼の目を引いたのは橋でも川でもなく、橋のしたに集まっている石ころだった。

昭和初期に市電長町線が開通すると、奥州街道は市電

通りとも呼ばれるようになる。はじめは広瀬橋の真横に市電専用橋が架けられた。長町行きが広瀬橋にさしかかると、回収した切符を川に投げ捨てる車掌もいた。長町の子どもたちは捨てられた切符を川のなかで探して遊んだという。

藩政時代に架けられた広瀬橋は幾度となく洪水によつて流失している。一八二三年には流された橋のために供養碑が建てられたが、その後いつからか「根岸の長者の娘が自ら人身御供となったことで川が鎮まり、無事に橋が架かった」とする所謂橋姫伝説が語られるようになる。その供養碑のすぐ近くで、いまキングさんが汗だくになりながら広瀬橋を描いている。

一方、せこ三平さんはその伝説に引き込まれ、人柱について調べている。調べるだけでは飽き足らず、生きたまま埋められた橋姫様のことを想って、実際に埋まってみるらしい。立会人は私。橋のたもとで待ち合せている。横桁に鳩がたくさんとまっている。

当たり」だべね。ヘタな人に八つ当たりすると、逆にたいへん痛い目に遭うので、我々は無意識に「八つ当たりをしてもいい人」を選んでいる。「こいつは叩いても大丈夫」という人が決定すると、もう寄ってたかってボコボコ。猫の視点から見ても、人間がいちばん怖いのですニャン。凶悪事件では事情もわからず容疑者に憎悪が集中しますが、おらは犯罪よりもその一般化された憎悪の方が怖いんだニャン。

これは「分断して統治」する権力者にとって強力なツールです。パワーゲームの中で多用され、犠牲者はボコボコにされて、精神疾患とかになるパターン。不安や不満、怒りや恐れのような感情を誰もが少しずつ持っているの、パワーゲームで維持される社会では、誰かがその捌け口にされる必要があるのかも。かくして、究極のスーパーパワー「神」は生贄を要求する。しかし！信州

信濃の早太郎は見破ったぞ！民を脅迫して誰かを犠牲にさせるなんて：そんなものは神ではなく「化け物」ですからっ！残念っ！ワンワンッ！ガブッ！

前略、橋姫様。埋まるのはさぞや怖かったでしょうね。おら、いくら考えても何もわかんないんで：河原さ穴掘って、ちよつくら埋まってみよと思っただけです。

おら、おっかねがら歌いながら：幸せになつてねーわたし埋まってます♪

(続く)



▲穴を掘るせこ三平

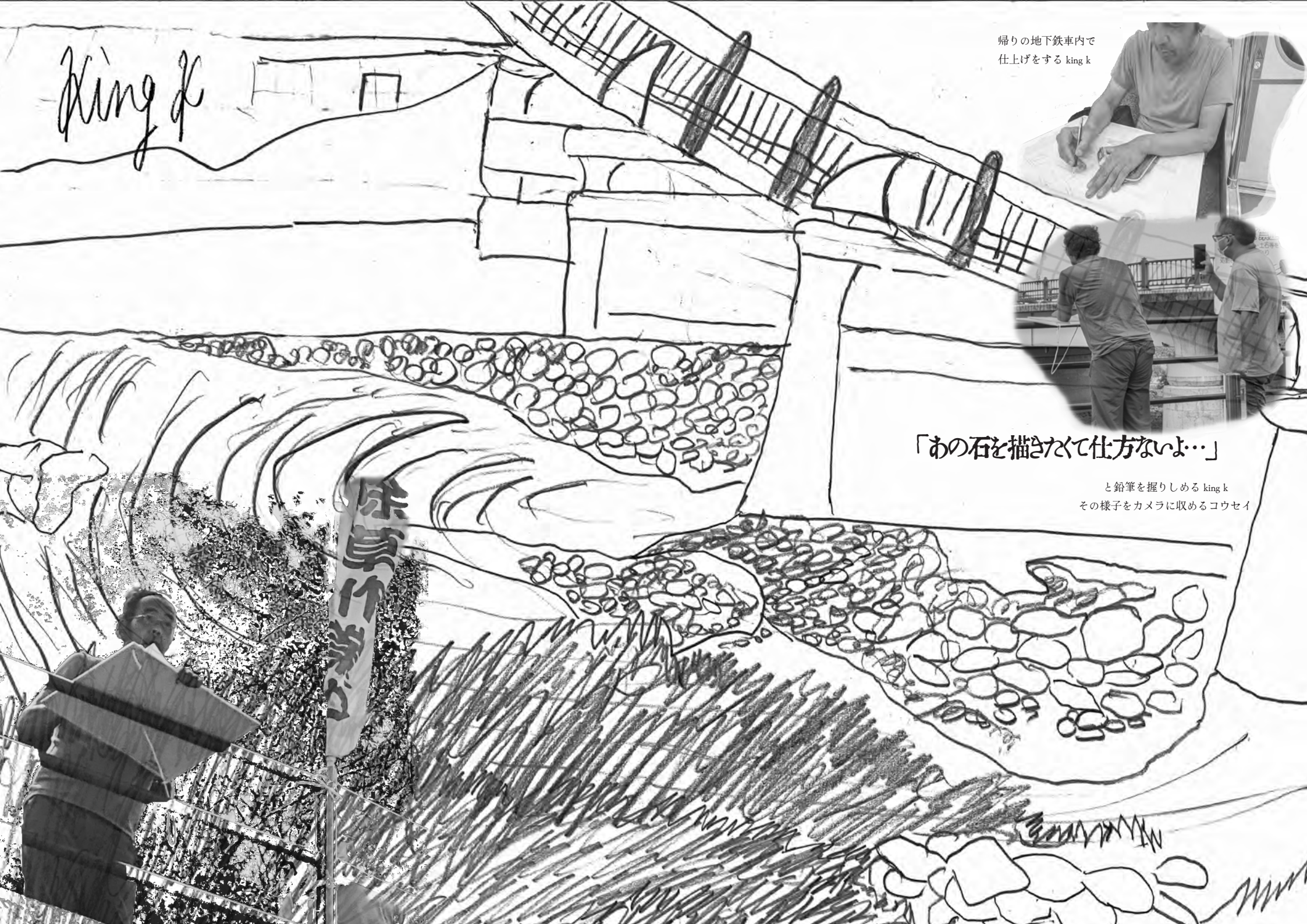
King k

帰りの地下鉄車内で
仕上げをする king k



「あの石を描きたくて仕方ないよ…」

と鉛筆を握りしめる king k
その様子をカメラに収めるコウセイ



せこ三平の

現代ヒトバシラ考

後編

埋まっちゃったのよーラララン
ン、埋まっちゃったのよーラララン

工事が難航して現場の意欲が下がってしまった時、「人柱を埋める」という行為は、強烈な刺激剤。工事を監督する人にはとても便利だったかも。ある写真家が「人間は人間を超えたものがないと元気が出ない」と言っていたけど、信じるってことは実際に天候を左右するぐらいの力を秘めていたかもしれない。生きていくとどうしても、理不尽なこと、耐え難いことに遭遇する。おらも「生きづらさ」と「毛の抜けやすさ」を抱えながらも、なんだりかんだり今日まで生きてみました。そしてこの歳になると、もう社会のせいだとか、

なんだりかんだり言ってられないのね。自分が死に直面した時、そういう言い訳は成り立たないと感じる。今この瞬間をみんな生きているわけだけど「自分が生きて死ぬことに何かの意味がほしい」という欲が人間にはあるのかな。人間の致死率は一〇〇%、誰もがいつか絶対に死ぬ。だから、生きがいと同時に「死にがい」ということも考えたり。人類すべての罪を背負って十字架にかかるとか、グスコブドリみたいに火山に飛び込むとか、衆生救済のため即身成仏とか：もう八つ当たりだろうが何だろうが、わかった上であえてすべてを一身に引き受けて、自分の命を差し出す。橋姫の行為も実際にそういう崇高なものだったのかもしれない。むりくり拉致された女性でないことを祈る。

で、おら実際に埋まってみたわけですが：やっぱり何もわがんないないない。んでも、川砂の感触、重み、

暗闇、息苦しさ、呼吸の音、感じますた。まあ「生きづらい」とか言っても、生き埋めになるぐらいつらいことはあんまりないかもです。僕らはみんな息できる。息できるからうれしんだ。♪



▲埋まるせこ三平と祈りを捧げる yuka*

みずもうたうよ 第2号 広瀬橋編(下) 二〇二三年九月二七日発行 一般社団法人アート・インクルージョン



長町にながれる水流を聴く
水辺散策 × アートのフリーペーパー



広瀬橋を河原町側にわたってすぐに桃源院という黄檗宗の施餓鬼寺がある。このあたりが昔いちめんの桃畑だったことから名がついた。白戸健さんとコウセイさんの二人が並んで、桃源院入口の桃の花にカメラを向けていたので、慌てて私もそのようすを撮影してみる。二人とも寡黙な表現者で、感情のうごいたタイミングが私にはなかなか分からない。

前号で長町を襲った洪水について書いたが、飢饉の被害もまた凄まじいものだった。数万と押し寄せる流民に救済を施したのが桃源院を建立した観心院淳君である。いまも毎年行われている広瀬川灯籠流しは、もともと飢饉の死者供養として桃源院が始まっている。

桃源院の斜向かいの川岸でいま、せこ三平さんが砂に埋まろうとしている。シャベルで横長に穴を掘り、そのなかに寝そべる。目を閉じて、手を合わせる。「じゃあ、埋めますよ。やばそうだったら叫んでください」と声を掛けて、私が柔らかない砂土をせこさんの身体にかけていく。ちょうど長町ロケをはじめたばかりの仙台のローカルアイドル yuka* がそのよ

うすをリポートする。「はじめまして。どうして埋まってるんですか?」「橋姫様の気持ちを知らたくて：」「埋まってるんですか?」「なんか、すごい圧迫感があります」

川沿いを沖野方面に向かってゆっくり歩いていく。しばらくすると四つ続けざまに並んだ鉄橋が見えてくる。東北新幹線、東北本線、常磐線、貨物線の専用橋だ。明治二〇年に東北本線新河原町架道橋が出来たのが最初だが、その橋にこんな話がある。当時国鉄の普通列車のトイレは解放式だった。垂れ流しである。橋梁下で釣りをしていた長町の子供たちは、列車が近づくと大声をあげてあわてて避難した。

若林緑地のすぐ近くには 旅立稲荷大社がある。政宗公が参勤の折、前号で紹介した五軒茶屋で一服し、ここで旅の無事を祈ったという。樹齢二三〇年のけやきの巨木を見上げ、白戸さんたちと一緒に「でか：」と立ち止まる。

こうして河川敷を歩く時間が白戸さんにとのようにイメー

いつの日かなくなっていた君に向けて描いたんだ。

どこかでこの絵を見つけてくれるかな、なんて期待していると自然と筆が進んでいた。
それと同時になんでもかな。

描きながらずっと涙が止まらないんだ。

苦しくなかなかった。

むしろ描いてる間笑ってたはずなのに。楽しくて笑っていたんだ。

それなのになんで：

なんで描いてるんだろう。

いつの間にかそう思うようになっていた。

そう思った瞬間から涙が止まって筆も進まなくなった。

なんのために：

「自分のためだよなこれ」

□からこぼれ落ちた言葉。

自分でその意味に気づいた瞬間ふっと軽くなった気がした。
再び描き始めた。そして完成した。

可能性は0なんかじゃない。

0.000001%でもあるならこれからも描き続けていくんだと思う。

それが自分なんだと思いながら。

ker-shirato-art

せこ三平の

泳げ！ギンジャケくん

第一話

シャケは涙か溜息か、心のうさ
の捨てどころ〜♪

ある晴れた秋の日。広瀬橋の下流にある「じやぶじやぶ池」に、ギンジャケくんが出現した。ギンジャケくんは養殖魚だ。志津川湾の生簀から逃げ出し、名取川から広瀬川に迷い込み、ここまで遡上して来た。口の中から天を仰ぐと、口の形に切り取られた青空が見えた。白い雲をトンビが横切って行く。口の端から、傾きかけた太陽の光が差し込む。せせらぎの音、ひんやりした水とヌルヌルする泥の感触。散歩する紳士と会釈を交わす。穏やかな午後だった。銀鮭は北米原産で、日本で初めて宮城県で養殖に成功したそうだ。山地の

孵化場で生まれた銀鮭は、体長二〇センチほどになると、海に運ばれて生簀の中に入れられ、水揚げされる日まで生簀の中で育つ。川も知らず広い海も知らず、ただ食べられるために生まれ、食べられるために生きる。人間が魚を美味しく食べるために、「神経締め」という技術があるそうだ。棒で叩いて脳を破壊し、脊髄にワイヤーを差し込んで神経を破壊し、尾のところを切って血液を抜く。良いとか悪いとかでなく、人間とはそういうもので、魚はただその運命を受け入れる。ある日、ギンジャケくんは幸運にも、広い海へ逃げ出すことができた。しかしみなさん、ギンジャケくんには、ふるさとの川がないのです。

独立行政法人水産総合研究センター
平成二六年一〇月二九日プレスリリースより引用「二〇一一年三月一日、東日本大震災で、東北地方沿

岸の養殖ギンザケが生簀とともに流されました。流失した養殖ギンザケは翌年の秋に、東北太平洋側の複数の河川に遡上し、中には成熟した個体も確認されました。ギンザケは本来我が国では産卵しないと言われていますが、多くの河川に遡上したため、サケやサクラマスなど由来のさけ・ます魚類に与えた影響が懸念されました（以下略）」

みなさん、わたしはいいんだいどこへ帰ればいいんでしょうか？



▲泳ぎ疲れたギンジャケくん

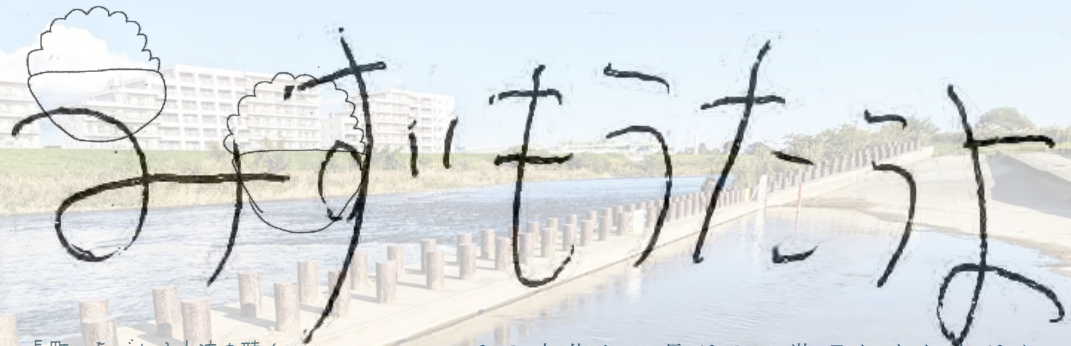
みずもうたうよ 第3号 じやぶじやぶ池編 二〇二三年十二月十二日発行 一般社団法人アート・インクルージョン

ある日、フラワー通りにある駄菓子屋ハトヤの店主がこんなことを語った。「長町公園（現鹿野公園）に市民プールがあったんだよ。二十年前くらい前になくなったんだけどね。まだうちがおもちや屋だった頃、夏はプール帰りの子どもたちがたくさん寄ってくれた。みんな泳ぎ疲れてお腹が空くからね、五十円とか七十円のカップラーメンがよく売れたよ。」じゃあ夏場の子ども们的来店も減ったのではと聞くと「八本松緑地にじやぶじやぶ池っていうのがあって、そこで遊んだ子どもたちが来てくれるよ」と教えてくれた。

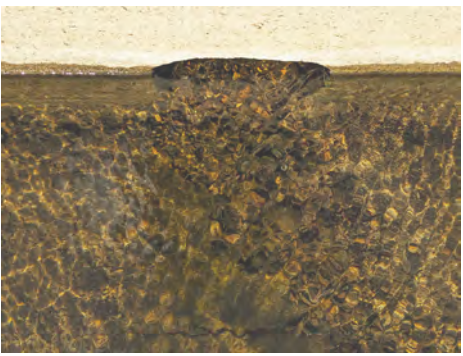
じやぶじやぶ池は、丸太の柵と堤で囲った範囲に広瀬川の水を引き入れてつくられた小さな親水池で、子どもたちが安全に水遊びできるように国交省によって整備された。長町の子どもたちにとって貴重な水遊び場である。毎年十一月には広瀬川の清流を守る会によって鮭まつりが開催される。政宗公が行ったという川狩に因んで鮭のつかみ取り体験が行われ、獲った鮭はその場で調理をして提供される。大都市に流れる川としては珍しく、広瀬川は毎年五千匹もの鮭が遡上する。しかし、近年は生活用水として利用される水が増えたことで川の水量自体が減り、鮭の数も大幅に

減少した。今年の鮭まつりも開催中止を余儀なくされた。十月某日。せこ三平さんが銀鮭に擬態し、じやぶじやぶ池を回遊するハプニングを行っている。鮭頭を被った池であそぶせこさんはとても涼しげで気持ちよさそうだったが、ピタッ！と足をとめて秋空を仰ぐ瞬間、行く宛のない寂しさを噛み締めているように見えた。

画家の妄想エンジン全開娘さんに、じやぶじやぶ池を舞台に何かつくってみませんかと声をかけてみると、写真を撮ってみたいという希望が返ってきた。アイドルのyukaさんが踊っているところを撮影して、そのあと今度は自分が踊って彼女に写真を撮ってもらいたい。全開娘さんはいつも別の表現に憧れていて、今回は元気凛冽に踊るyukaさんと表現の交換をしてみたいという。私はこれをへ交換するポートレート」と名付けた。最初は恥ずかしそうだった全開娘さんも身体を動かしているうちに、表情がほどこけてきた。撮っているときは全然違う感覚だと語る。踊り慣れているyukaさんも、ひとが踊っているところを撮る経験はほとんど無い。yukaさんが画角を変えてスマホを構え直すと、静かに泳ぐギンジャケくんが写り込んだ。



長町にながれる水流を聴く
水辺散策 × アートのフリーペーパー





妄想エンジン全開娘

普段から
踊り慣れ 撮られ慣れている
アイドルのyuka*
普段は画家として活動している
妄想エンジン全開娘
お互いが
踊ったり踊ってみせたり
撮ったり撮られたり
慣れていることと慣れないこと
わかることとわからないこと
束の間「からだ」をうつしかえてみる
パフォーマンスです

交換
ポトット



仙台競馬妄想譚

文・寫眞 印度孔雀
繪 小野統也

二〇二二年十一月、仙台市内に、恐らく初であろう、JRA（日本中央競馬会）の競馬関連施設がオープンした。といっても、そこは場外馬券売場ではなく、あくまでも競馬のレース映像をリアルタイムで観戦できる、いわばシアターのような場所だ。聞くところによると、仙台市は公営ギャンブル関係の施設の設置に厳しいというが、そんな街に、JRAの公式施設が置かれたというだけでも大きな進歩であろう。その仙台市であるが、かつて―それも十九世紀末から戦後数年にかけて、存在時期は違えど五つほどの競馬場が、市内に存在していたという。その五つの中で、最も近年まで存在していたのが、一九六〇年に廃止された仙台競馬場だ。それも、現在の郡山付近にあったといい、「長町競馬場」と呼ばれていたそうなのだから驚きだ。バイ

みずもうたうよ 第4号 木流堀編

二〇二三年十二月十三日発行 一般社団法人アート・インクルージョン

足元にばつんと落ちていたたべつ子どうぶつを見つけた。お父さんにおんぶしてもらってご満悦な子どもの手から、あつ、とこぼれ落ちるビスケット。そんな映像を思い浮かべながら、猫型ビスケットにスマホのカメラを向けると、キングさんが「妙なものを撮るねえ」と呆れたように言う。彼は風景画を描くときの題材にするため、作業的にシャッターを切る。そんな彼に赤瀬川原平の路上観察のことを話して軽く受け流されている私の後ろで、コウセイさんは花壇いっぱい咲く花々にカメラを向けていた。

長町一丁目駅からフラワー通りを抜けて仙台南高校の方へ出ると、そこに木流堀が流れている。これは太白区富田で名取川から入れた水を広瀬川まで引く全長約六キロの水路で、江戸時代初期に材木を運ぶために開削されたと言われている。この木流堀に沿ってしばらく南下すると仙台三桜高校が見えてくる。ここに通うペンネーム・印度孔雀から、長町にかつてあった仙台競馬場についての文章が届いた。私は彼の文章を読みながら、長町の老舗のお茶屋さんが「競馬の日は玉露がよく売れた」と語り残していたのを思い出した。玉露はカフェインが多く含まれているから、興奮剤

パス開通のために残念ながら廃止されてしまったこの競馬場。もし現存していれば…色々と妄想が膨らむところである。

まだまだ競馬ファンとしても歴は浅く、未熟者ではあるが、長町駅からほど近い学校に通う馬好きの端くれとして、とりあえず学校帰りに観戦しに向かう（当然だが未成年なので勝馬投票券は買わない）。好きな馬や騎手が勝って上機嫌にでもなれば、勉強だって愉快に進められること請け合いだろう。重賞レースの盛り上がり身を委ねるのも悪くない。レース結果に一喜一憂する紳士たちの表情を眺めるのもまた一興だ。

ところで、現在、JRAの福島競馬場において、「七夕賞」というのⅢ競走が施行されていることはご存知だろうか。過去には大逃げで知られたツイスターボ号や、後の天皇賞馬オフサイドトラップ号などが優勝しているこのレース、かつては同名のレースが、件の長町競馬場にて開催されていたとい

う。仙台とも縁が深い「七夕」。もし仙台の名を冠した競馬場が現存し、この名前のレースが八月の第一日曜日あたりに施行されていたら…仙台の七夕も一段と盛り上がることも間違いはない。



▲2023年七夕賞口取写真
（撮影 印度孔雀）

昨今、この国の競馬のレベルは格段に高まっている。世界最強と呼ばれる馬も現れ、地方にも強豪が生まれ、まさに群雄割拠と呼んでいいだろう。日本の馬たちが当たり前前に世界レベルに立てるようになったこの時代、仙台に競馬場があったなら、どうなっていたのか…私は日々、思いを馳せるだろう。

として馬に食べさせたのだという。

「ねえ、高倉さん、この暑いなかでこんな訳のわからないことやってるひと、いないんじゃないの。」木場跡橋の欄干で画板を支え、すらすらと紙に鉛筆を走らせているキングさんがそう言って笑い出した。誰もやらないような意味わからないことを敢えてやるのが表現者でしょう、とか何とか適当なことを言いながら、確かに八月の真っ昼間に「外でライブドローイングやりませんか」と利用者さんを連れ出してしまふ支援員は相当おかしい気がしてきた。描き終わったら一回コンビニで休憩しましょう、と話す。

ここを流れた木は現在の南高校辺りにあった木場と呼ばれる木蔵に集められ、仙台藩の家臣たちに燃料として無料で支給された。この木流しが昭和期まで行われたほか灌漑や農産物の運搬にも使われ、長町の生活に密着した水路だったようだ。一九六八年からの改修工事でコンクリート擁壁となり、いまは主に雨水排水路として利用されている。木流堀をスケッチするキングさん、それを記録するコウセイさん、唯一の観客である私。三人で汗を拭いつつ、かつて薪を運んだという水が走る音、鉛筆が走る音を聴いている。



長町にながれる水流を聴く
水辺散策 × アートのフリーペーパー

